

(様式第 10)

愛大医総第 351 号
平成 28 年 10

厚生労働大臣 塩崎 恭久 殿

開設者名 愛媛大学長 大橋 裕

愛媛大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒790-8577 松山市道後樋又10番13号
氏 名	国立大学法人愛媛大学長 大橋 裕一

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

愛媛大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒791-0295 愛媛県東温市志津川	電話(089) 964-5111
------------------------	------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
<input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 血液内科 2 感染症内科 3 消化器内科 4 膠原病・リウマチ内科 5 循環器内科 6 呼吸器内科 7 腎臓内科 8 高血圧内科 9 内分泌内科 10 代謝内科 11 アレルギー内科 12 糖尿病内科 13 老年内科 14 神経内科 15 薬物療法内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
1 消化器腫瘍外科 2 食道・胃・大腸外科 3 内視鏡外科 4 小児外科 5 肝胆膵・移植外科 6 乳腺・内分泌外科 7 消化器外科 8 心臓血管外科 9 呼吸器外科 10 形成外科 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科	2小児科	3整形外科	4脳神経外科	5皮膚科	6泌尿器科	7産婦人科
8産科	9婦人科	10眼科	11耳鼻咽喉科	12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	15麻酔科	16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無					
歯科と組み合わせた診療科名						
1 歯科口腔外科	2	3	4	5	6	7
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 頭頸部外科	2 病理診断科	3 リハビリテーション科	4 臨床検査科	5 総合診療科		
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21					

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40床	床	床	床	602床	642床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成28年 10月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	226 人	162 人	357.3 人	看護補助者	68 人	診療エックス線技師	0 人
歯科医師	6 人	10 人	14.0 人	理学療法士	8 人	臨床検査技師	44 人
薬 剤 師	50 人	1 人	50.7 人	作業療法士	2 人	衛生検査技師	0 人
保 健 師	0 人	0 人	0 人	視能訓練士	6 人	そ の 他	0 人
助 産 師	13 人	0 人	13.0 人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看 護 師	612 人	22 人	628.7 人	臨床工学士	15 人	医療社会事業従事者	10 人
准看護師	0 人	0 人	0 人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	15 人
歯科衛生士	5 人	0 人	5.0 人	歯科技工士	2 人	事務職員	147 人
管理栄養士	9 人	1 人	9.2 人	診療放射線技師	33 人	その他の職員	24 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成28年 6月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	30 人	眼 科 専 門 医	13.4 人
外 科 専 門 医	29 人	耳鼻咽喉科専門医	11.5 人
精神科専門医	7 人	放射線科専門医	14.8 人
小児科専門医	22.4 人	脳神経外科専門医	10 人
皮膚科専門医	7.2 人	整形外科専門医	18 人
泌尿器科専門医	8 人	麻酔科専門医	18.8 人
産婦人科専門医	11 人	救急科専門医	5 人
		合 計	206.1 人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名(附属病院長 三浦裕正) 任命年月日 平成27年 4月 1日

平成22年4月1日に整形外科教授就任後、診療科長として医療安全管理委員会委員となり、平成27年4月1日に附属病院長に就任後、医療安全管理委員会委員長を務めている。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	539.0 人	14.0 人	553.0 人
1日当たり平均外来患者数	1,177.1 人	49.1 人	1,226.2 人
1日当たり平均調剤数	152.8 剤		
必要医師数	126.2人		
必要歯科医師数	4.2人		
必要薬剤師数	19.0人		
必要(准)看護師数	319.0人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	432 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	22床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 282m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	14床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 20m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	302m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動検体検査搬送システム 全自動化学発光免疫測定装置			
細菌検査室	266m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 細菌同定装置 自動細菌タイピング装置			
病理検査室	175m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 液状化検体細胞診標本作成装置 自動免疫染色装置			
病理解剖室	399m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 剖検台 局所排気装置			
研究室	314m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン、顕微鏡、プロジェクターなど			
講義室	734m ²	鉄筋コンクリート	室数	18室	収容定員	300人
図書室	99m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数	10,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年4月1日～平成28年3月31日	
紹介率	91.1%	逆紹介率	54.5%
算出根拠	A：紹介患者の数	12,445	人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	7,583	人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	224	人
	D：初診の患者の数	13,898	人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注) 現在、設置に向けて準備中

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	
現在、設置に向けて準備中	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 実績なし			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	ベーチェット病	66
2	筋萎縮性側索硬化症	38	57	特発性拡張型心筋症	41
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	6
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	17	60	再生不良性貧血	30
6	パーキンソン病	208	61	自己免疫性溶血性貧血	2
7	大脳皮質基底核変性症	14	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3
8	ハンテントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	47
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリートゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	8
11	重症筋無力症	72	66	IgA 腎症	6
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	9
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	118	68	黄色靭帯骨化症	19
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	13	69	後縦靭帯骨化症	120
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症	3
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	65
17	多系統萎縮症	18	72	下垂体性ADH分泌異常症	10
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	38	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	6	74	下垂体性PRL分泌亢進症	6
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	3
21	ミトコンドリア病	10	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	38	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	20
23	プリオン病	2	78	下垂体前葉機能低下症	25
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	9	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	65
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	8
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	4
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	2
34	神経線維腫症	15	89	リンパ管筋腫症	2
35	天疱瘡	45	90	網膜色素変性症	27
36	表皮水疱症	6	91	バッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	6	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	41
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	2
40	高安動脈炎	24	95	自己免疫性肝炎	13
41	巨細胞性動脈炎	3	96	クローン病	47
42	結節性多発動脈炎	9	97	潰瘍性大腸炎	114
43	顕微鏡的多発血管炎	31	98	好酸球性消化管疾患	2
44	多発血管炎性肉芽腫症	9	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	6	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	4	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャール病	6	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	GFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	174	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	85	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	73	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	51	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	15	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	8	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	4	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
0	先天性ミオパチー	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
0	マリネスコ・シェーグレン症候群	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	8
5	筋ジストロフィー	163	特発性後天性全身性無汗症	0
0	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	164	眼皮膚白皮症	0
0	遺伝性周期性四肢麻痺	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
0	アトピー性脊髄炎	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
2	脊髄空洞症	167	マルファン症候群	1
0	脊髄髄膜瘤	168	エーラス・ダンロス症候群	0
0	アイザックス症候群	169	メンケス病	0
0	遺伝性ジストニア	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
0	神経フェリチン症	171	ウィルソン病	3
1	脳表ヘモジドリン沈着症	172	低ホスファターゼ症	0
0	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	173	VATER症候群	0
0	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	174	那須・ハコラ病	0
0	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	175	ウィーバー症候群	0
0	ペリー症候群	176	コフィン・ローリー症候群	0
3	前頭側頭葉変性症	177	有馬症候群	0
0	ピッカースタッフ脳幹脳炎	178	モワット・ウィルソン症候群	0
0	痙攣重複型(三相性)急性脳症	179	ウィリアムズ症候群	0
0	先天性無痛無汗症	180	ATR-X症候群	0
0	アレキサンダー病	181	クルーゾン症候群	0
0	先天性核上性球麻痺	182	アペール症候群	0
0	メビウス症候群	183	ファイファー症候群	0
0	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
0	アイカルディ症候群	185	コフィン・シリズ症候群	0
0	片側巨脳症	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
0	限局性皮質異形成	187	歌舞伎症候群	0
0	神経細胞移動異常症	188	多脾症候群	0
0	先天性大脳白質形成不全症	189	無脾症候群	0
0	ドラベ症候群	190	鰓耳腎症候群	0
0	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	191	ウェルナー症候群	0
0	ミオクロニー欠神てんかん	192	コケイン症候群	0
0	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
0	レノックス・ガストー症候群	194	ソトス症候群	0
0	ウエスト症候群	195	ヌーナン症候群	0
0	大田原症候群	196	ヤング・シンブロン症候群	0
0	早期ミオクロニー脳症	197	1p36欠失症候群	0
0	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	198	4p欠失症候群	0
0	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	199	5p欠失症候群	0
0	環状20番染色体症候群	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
0	ラスムッセン脳炎	201	アンジェルマン症候群	0
0	PCDH19関連症候群	202	スミス・マジニス症候群	0
0	難治頻回部分発作重複型急性脳炎	203	22q11.2欠失症候群	1
0	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	204	エマヌエル症候群	0
0	ランドウ・クレフナー症候群	205	脆弱X症候群関連疾患	0
0	レット症候群	206	脆弱X症候群	0
0	スタージ・ウェーバー症候群	207	総動脈幹遺残症	0
0	結節性硬化症	208	修正大血管転位症	0
0	色素性乾皮症	209	完全大血管転位症	0
1	先天性魚鱗癬	210	単心室症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	3	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	1
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	1
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	4
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	5	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	1
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	1
254	ホルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	7

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	救急搬送患者地域連携紹介加算
歯科外来診療環境体制加算	総合評価加算
歯科診療特別対応連携加算	病棟薬剤業務実施加算
特定機能病院入院基本料 一般	データ提出加算
特定機能病院入院基本料 精神	特定集中治療室管理料4
看護補助加算	脳卒中ケアユニット入院医療管理料
臨床研修病院入院診療加算	新生児特定集中治療室管理料1
救急医療管理加算	新生児治療回復室入院医療管理料
超急性期脳卒中加算	小児入院医療管理料2
妊産婦緊急搬送入院加算	小児入院医療管理料4
診療録管理体制加算2	短期滞在手術等基本料2
急性期看護補助体制加算	入院時食事療養／生活療養(I)
療養環境加算	・
重症者等療養環境特別加算	・
無菌治療室管理加算1	・
無菌治療室管理加算2	・
緩和ケア診療加算	・
精神科身体合併症管理加算	・
がん診療連携拠点病院加算	・
栄養サポートチーム加算	・
医療安全対策加算1	・
感染防止対策加算1	・
患者サポート体制充実加算	・
ハイリスク妊娠管理加算	・
ハイリスク分娩管理加算	・
退院調整加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
植込型除細動器移行期加算	検体検査管理加算(IV)
高度難聴指導管理料	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
糖尿病合併症管理料	植込型心電図検査
がん性疼痛緩和指導管理料	時間内歩行試験
がん患者指導管理料1	胎児心エコー法
がん患者指導管理料2	ヘッドアップティルト試験
がん患者指導管理料3	皮下連続式グルコース測定
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	長期継続頭蓋内脳波検査
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	神経学的検査
糖尿病透析予防指導管理料	補聴器適合検査
外来リハビリテーション診療料	ロービジョン検査判断料
ニコチン依存症管理料	コンタクトレンズ検査料1
歯科治療総合医療管理料	小児食物アレルギー負荷検査
地域連携診療計画管理料	内服・点滴誘発試験
がん治療連携計画策定料	CT透視下気管支鏡検査加算
がん治療連携管理料	画像診断管理加算2
認知症専門診断管理料	遠隔画像診断
肝炎インターフェロン治療計画料	ポジロン断層・コンピューター断層複合撮影
薬剤管理指導料	CT撮影及びMRI撮影
医療機器安全管理料1	冠動脈CT撮影加算
医療機器安全管理料2	大腸CT撮影加算
医療機器安全管理料(歯科)	心臓MRI撮影加算
持続血糖測定器加算	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
造血器腫瘍遺伝子検査	外来化学療法加算1
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	無菌製剤処理料
検体検査管理加算(I)	脳血管疾患等リハビリテーション料(I)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
歯科口腔リハビリテーション料2	植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)
精神科作業療法	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
医療保護入院等診療料	補助人工心臓
エタノールの局所注入(甲状腺)	植込型補助人工心臓(非拍動流型)
エタノールの局所注入(副甲状腺)	経皮的動脈遮断術
一酸化窒素吸入療法	内視鏡下下肢静脈瘤不全穿通枝切離術
CAD/CAM冠	ダメージコントロール手術
歯周組織再生誘導手術	胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
広範囲顎骨支持型装置埋入手術	腹腔鏡下肝切除術
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	生体部分肝移植術
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	同種死体肝移植術
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	腹腔鏡下腓骨体尾部腫瘍切除術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))	同種死体腎移植術
羊膜移植術	生体腎移植術
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	膀胱水圧拡張術
網膜再建術	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
乳がんセンチネルリンパ節加算1	医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
経皮的冠動脈形成術	輸血管管理料Ⅰ
経皮的冠動脈ステント留置術	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	内視鏡手術用支援機器加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
麻酔管理料(I)	
麻酔管理料(II)	
放射線治療専任加算	
外来放射線治療加算	
クラウン・ブリッジ維持管理料	
高エネルギー放射線治療	
強度変調放射線治療(IMRT)	
画像誘導放射線治療(IGRT)	
直線加速器による放射線治療(定位放射線治療)	
定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
歯科技工加算	
保険医療機関間の連携による病理診断	
病理診断管理加算1	
口腔病理診断管理加算1	
外来放射線照射診療料	
心大血管疾患リハビリテーション料(I)	
悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	
ゲル充填人口乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	
経皮的中隔心筋焼灼術	
原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
超音波骨折治療法(四肢の骨折(治療のために手術中に行われるものを除く。)のうち、観血的手術を実施したもの(開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。)に係るものに限る。)	・
先天性難聴の遺伝子診断(他の保険医療機関に対して検体の採取以外の業務を委託するもの)	・
インプラント義歯	・
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	
剖 検 の 状 況	剖検症例数 12 例 / 剖検率 7.1 %

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
未就学児の睡眠・情報通信機器使用の実態把握と早期介入に関する研究：保健指導マニュアルの構築	岡 靖哲	医学部附属病院	5,665,000	補委 厚生労働省
潰瘍性大腸炎の発症関連及び予防要因解明を目的とした症例対照研究	三宅 吉博	大学院医学系研究科	2,559,000	補委 厚生労働省
正常靭帯機能を有する次世代人工膝関節の開発	日野 和典	大学院医学系研究科	1,170,000	補委 日本学術振興会
着床前胚における分泌型プロソポン産生細胞の同定と細胞内動態の解明	下川 哲哉	大学院医学系研究科	2,080,000	補委 日本学術振興会
HLAによる糖尿病の新分類の試み	大沼 裕	大学院医学系研究科	1,170,000	補委 日本学術振興会
SNP・環境因子統合エピジェネティクスによるレジスチン遺伝子発現調節機構の解明	大澤 春彦	大学院医学系研究科	1,560,000	補委 日本学術振興会
熱性痙攣と内側側頭葉てんかんの神経免疫学的機序の解明と新たな分子標的療法の開発	福田 光成	医学部附属病院	1,040,000	補委 日本学術振興会
MLL転座型白血病の白血病幹細胞の同定と治療応用に向けての基礎研究	江口 真理子	大学院医学系研究科	1,040,000	補委 日本学術振興会
エクリン汗免疫異常の改善による掌蹠膿疱症の病態制御	村上 正基	医学部附属病院	1,170,000	補委 日本学術振興会
IL-22によるヒト表皮角化細胞の分化の制御についての検討	藤山 幹子	大学院医学系研究科	1,300,000	補委 日本学術振興会
半導体SPECTを用いた心筋局所血流の定性・定量解析による虚血性心疾患の総合診断	宮川 正男	医学部附属病院	1,040,000	補委 日本学術振興会
心サルコイドーシスの診断におけるFDG-PET検査の有用性に関する検討	望月 輝一	大学院医学系研究科	1,040,000	補委 日本学術振興会
大動脈周囲脂肪組織のアンジオテンシンⅡ受容体サブタイプが大動脈瘤発症に与える影響	鈴木 純	大学院医学系研究科	1,690,000	補委 日本学術振興会
血液脳関門の破綻により誘導される糖尿病性認知症への分子病態の解明と治療戦略	茂木 正樹	大学院医学系研究科	1,300,000	補委 日本学術振興会
microRNAプロファイリングによる悪性グリオーマの新規治療法の開発	大西 丘倫	大学院医学系研究科	1,040,000	補委 日本学術振興会
多光子顕微鏡による二分脊髄神経回路の可視化	松田 正司	大学院医学系研究科	1,560,000	補委 日本学術振興会
骨髄幹細胞を用いた虚血性難聴に対する新規の再生治療法の開発	阪中 雅広	大学院医学系研究科	650,000	補委 日本学術振興会
バイオイメーjingを用いた角膜実質幹細胞の同定	林 康人	医学部附属病院	1,300,000	補委 日本学術振興会
新規抗菌物質Firmocidin及びエクリン汗自然免疫を応用した創傷治療システム	中岡 啓喜	医学部附属病院	1,430,000	補委 日本学術振興会
母親の歯周病及び子の乳歯齲蝕のリスク要因解明に関する前向き母子コホート研究	田中 景子	大学院医学系研究科	1,560,000	補委 日本学術振興会
小児1型糖尿病患者へのメンタリングを用いた教育・看護介入プログラムの応用的研究	薬師神 裕子	大学院医学系研究科	1,040,000	補委 日本学術振興会
フレイルティリスクとしての自律神経機能障害：立位負荷による評価	小原 克彦	大学院医学系研究科	1,170,000	補委 日本学術振興会
T細胞運命決定における転写抑制因子Bach2の役割解析	桑原 誠	医学部附属病院	520,000	補委 日本学術振興会
生体光イメージングを利用した膠芽腫幹細胞の機能解析と分化誘導療法の新規開発	井上 明宏	大学院医学系研究科	520,000	補委 日本学術振興会
Zfp521ノックアウトマウスは造血器および脳神経の発生分化機構の解明に寄与する	松原 悦子	大学院医学系研究科	1,690,000	補委 日本学術振興会

T細胞の疲弊を制御する分子メカニズムの解明	山田 武司	大学院医学系研究科	1,820,000	補委	日本学術振興会
新規潰瘍性大腸炎治療薬の探索	荒木 博陽	医学部附属病院	2,080,000	補委	日本学術振興会
レジチンが1型糖尿病に関連するメカニズムの解明と、インスリン依存予知法の確立	高田 康徳	大学院医学系研究科	1,430,000	補委	日本学術振興会
自律神経系機能の低下と糖尿病発症に関するコホート研究	斉藤 功	大学院医学系研究科	1,820,000	補委	日本学術振興会
睡眠呼吸障害が肝疾患患者の予後に及ぼす影響に関する多施設共同疫学研究	古川 慎哉	大学院医学系研究科	910,000	補委	日本学術振興会
天然物成分の腫瘍組織環境制御による抗腫瘍効果とその作用機構	木村 善行	大学院医学系研究科	1,430,000	補委	日本学術振興会
消化管ホルモン受容体相互連関および機能発現の解析	松浦 文三	大学院医学系研究科	1,560,000	補委	日本学術振興会
門脈圧亢進症による脾血流動態異常が脾内分泌障害および脾外内分泌障害に及ぼす影響	熊木 天児	大学院医学系研究科	1,040,000	補委	日本学術振興会
先制医療の実現にむけたエクソーム解析による遺伝性心筋症のリスク層別化の検討	大木元 明義	医学部附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
血栓症における血漿トロンピン切断型オステオポンチン測定の有用性	檜垣 實男	大学院医学系研究科	1,300,000	補委	日本学術振興会
先天性血小板減少症の新たな原因遺伝子の同定とその機能解析	羽藤 高明	医学部附属病院	1,560,000	補委	日本学術振興会
造血幹細胞へのT細胞レセプター遺伝子導入による革新的造血幹細胞移植療法の開発	東 太地	医学部附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
新生児の腸内フローラの形成が成長発達に与える影響に関する研究	田内 久道	医学部附属病院	1,560,000	補委	日本学術振興会
TEL-AML1陽性白血病の発症過程の解明と分子標的療法の開発	江口 峰斉	医学部附属病院	1,950,000	補委	日本学術振興会
心停止ドナーからの肺移植における血管内皮細胞の破綻とその抑制	岡崎 幹生	医学部附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
梗塞巣への浸潤細胞を使って脳梗塞を治す	久門 良明	大学院医学系研究科	1,430,000	補委	日本学術振興会
妊娠高血圧症候群の病態形成にはトロホラストに発現するHMGA1が関与している	松原 圭一	医学部附属病院	1,040,000	補委	日本学術振興会
リポソーム加工オンコリティックアデノウイルスによる卵巣癌特異的遺伝子治療法の開発	濱田 雄行	医学部附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
遺伝子改変マウスを用いた子宮頸癌発生における各種増殖因子・癌遺伝子の役割の解明	松元 隆	大学院医学系研究科	1,690,000	補委	日本学術振興会
骨髄線維芽細胞の注入による角膜実質再生	大橋 裕一	大学院医学系研究科	910,000	補委	日本学術振興会
マウス皮膚上皮SP細胞から角膜上皮細胞への形質転換誘導因子の同定	白石 敦	大学院医学系研究科	1,430,000	補委	日本学術振興会
リンパ節転移機構の解明による新規口腔癌治療戦略の確立	合田 啓之	医学部附属病院	1,040,000	補委	日本学術振興会
排泄障害のある認知症高齢者の潜在能力を活用した排泄行動援助プログラムの有効性	陶山 啓子	大学院医学系研究科	1,300,000	補委	日本学術振興会
高齢者入所施設で排尿誘導法を効果的に実践するためのプロトコルの作成	中村 五月 (形上五月)	大学院医学系研究科	1,170,000	補委	日本学術振興会
在宅要介護高齢者の排泄障害の介入時期に基づいた援助プログラムの有効性	田中 久美子	大学院医学系研究科	1,820,000	補委	日本学術振興会
幼児・学童期発達障害児と親を支援する先輩親からのメンタリング・プログラムの開発	西嶋 真理子	大学院医学系研究科	910,000	補委	日本学術振興会
大型動物とCadaverを用いた腹腔鏡手術における上方照明システムの有用性の検討	高井 昭洋	医学部附属病院	1,690,000	補委	日本学術振興会
エクドメイン・シェディングの“ゆらぎ”解析とがん細胞動態予測への応用	東山 繁樹	プロテオサイエンスセンター	1,560,000	補委	日本学術振興会
塩基配列特異的なメチル化シトシンin situ検出法の開発	北澤 莊平	大学院医学系研究科	650,000	補委	日本学術振興会

がんに対する抗体療法と細胞療法とのクロスリンク治療法の開発	安川 正貴	大学院医学系研究科	1,690,000	補委	日本学術振興会
小児急性白血病の発症前診断法の開発	石井 榮一	大学院医学系研究科	1,560,000	補委	日本学術振興会
遺残性真珠腫の根絶を目指して— Galectin-7染色による真珠腫の術中同定—	羽藤 直人	大学院医学系研究科	1,690,000	補委	日本学術振興会
口腔癌診療への liquid biopsy の応用	中城 公一	大学院医学系研究科	1,820,000	補委	日本学術振興会
CUL3によるin vivo時空間的血管新生制御機構の解析	坂上 倫久	大学院医学系研究科	1,950,000	補委	日本学術振興会
白血病性幹細胞を標的とした細胞免疫遺伝子治療の開発研究	朝井 洋晶	医学部附属病院	1,560,000	補委	日本学術振興会
バルプロ酸による放射線誘発口腔粘膜炎症軽減作用の検討	田中 亮裕	医学部附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
新たな動脈硬化リスクとしてのサルコペニア	越智 雅之	医学部附属病院	910,000	補委	日本学術振興会
血管老化におけるレニン・アンジオテンシン系とmicroRNAの関連についての検討	関 莉娟	医学部附属病院	1,950,000	補委	日本学術振興会
悪性胸膜中皮腫細胞と癌間質線維芽細胞間におけるオステオポンチンの役割	三好 誠吾	医学部附属病院	1,950,000	補委	日本学術振興会
Cキナーゼ阻害剤で誘導されたヒト免疫寛容樹状細胞による自己免疫疾患治療への展開	松本 卓也	医学部附属病院	1,170,000	補委	日本学術振興会
メラノーマ幹細胞をプロモートする新たな内皮細胞由来因子の同定	白石 研	医学部附属病院	1,950,000	補委	日本学術振興会
内耳虚血に対する人工酸素運搬体投与の臨床応用に向けた研究	岡田 昌浩	医学部附属病院	2,210,000	補委	日本学術振興会
リジルオキシダーゼ様酵素2の阻害による頭頸部扁平上皮がんリンパ節転移抑制の検討	上田 哲平	医学部附属病院	1,820,000	補委	日本学術振興会
Pathophysiological investigation of bone cell communications regulated by chemokine network	李 智媛	プロテオサイエンスセンター	1,950,000	補委	日本学術振興会
メタボローム解析による唾液中の新規口腔癌診断マーカーの探索	岩本 和樹	医学部附属病院	1,950,000	補委	日本学術振興会
口腔扁平上皮癌におけるCDCA5の発現と機能解析	徳善 紀彦	医学部附属病院	1,950,000	補委	日本学術振興会
経管栄養患者の排便状態を改善するための半固形化栄養剤による援助方法の開発	小岡 亜希子	大学院医学系研究科	650,000	補委	日本学術振興会
食餌中脂肪酸組成により誘導されたNASHと肝癌の発生機序の解明と制御法の開発	三宅 映己	大学院医学系研究科	2,080,000	補委	日本学術振興会
次世代型最小侵襲鏡視下靱帯再建システムの確立と実用化に関する研究	渡邊 誠治	医学部附属病院	2,600,000	補委	日本学術振興会
地域指向性尺度の検証と活用に関する調査研究	川本 龍一	大学院医学系研究科	780,000	補委	日本学術振興会
成長軟骨板に依存する長管骨発生プロセスの理解：組織系譜解析によるアプローチ	原口 竜摩	大学院医学系研究科	2,080,000	補委	日本学術振興会
上皮間葉相互転換システムを利用した細胞極性の形成と消失の可逆的制御機構の解析	福田 信治	プロテオサイエンスセンター	1,690,000	補委	日本学術振興会
破骨細胞分化因子受容体(RANK)発現制御機構の解析	北澤 理子	医学部附属病院	2,730,000	補委	日本学術振興会
雄性生殖体の鞭毛放出とPyGM75の構造機能相関解析	橘 真由美	プロテオサイエンスセンター	1,950,000	補委	日本学術振興会
認知症予防を目的とした脳萎縮、認知機能検査の縦断研究	伊賀瀬 道也	医学部附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
高品位な知識抽出を実現する三階層オントロジーフレームワークの開発	木村 映善	大学院医学系研究科	1,560,000	補委	日本学術振興会
ホルマリン固定臓器からの薬毒物分析法の開発研究	浅野 水辺	大学院医学系研究科	1,820,000	補委	日本学術振興会
H. pylori感染におけるパターン認識受容体を介したリンパ球浸潤機序の解明	伊藤 有紀	プロテオサイエンスセンター	1,950,000	補委	日本学術振興会

C型肝炎ウイルスによる炎症に起因する肝発癌および癌進展機序とPKRの役割	日浅 陽一	大学院医学系研究科	1,690,000	補委	日本学術振興会
糖尿病・肥満・脂肪肝を介した肝発癌におけるアディポカインBAFFの役割	阿部 雅則	大学院医学系研究科	1,820,000	補委	日本学術振興会
肝硬変の小腸脂質吸収障害に対するBCAA(分枝鎖アミノ酸)の保護作用の解明	竹下 英次	医学部附属病院	1,690,000	補委	日本学術振興会
白血病に対する細胞免疫療法の最適化に向けて-T細胞ネットワークを輸注する-	藤原 弘	医学部附属病院	1,820,000	補委	日本学術振興会
自己免疫疾患における抗原特異的免疫抑制療法の確立に向けた研究	長谷川 均	大学院医学系研究科	1,430,000	補委	日本学術振興会
うつ病患者における幼少期ストレスと白血球5HTT遺伝子発現とDNAメチル化の関連	伊賀 淳一	大学院医学系研究科	1,430,000	補委	日本学術振興会
心臓CTによる冠動脈支配領域の自動抽出と定量評価	倉田 聖	医学部附属病院	2,080,000	補委	日本学術振興会
新規シミュレーターとWT1ペプチドワクチン併用による肝癌局所療法の開発	廣岡 昌史	医学部附属病院	1,950,000	補委	日本学術振興会
局所温熱化学療法による原発巣と所属転移リンパ節の同時治療の挑戦	吉田 素平	医学部附属病院	780,000	補委	日本学術振興会
グリオーマ特異的miRNAの性状解析に基づいた新規治療法および診断マーカーの確立	高野 昌平	医学部附属病院	2,470,000	補委	日本学術振興会
集束超音波による血液脳関門解放下での遺伝子導入による新たなグリオーマ治療の開発	大上 史朗	大学院医学系研究科	2,470,000	補委	日本学術振興会
新たな人工耳小骨の開発に関する研究	山田 啓之	医学部附属病院	3,380,000	補委	日本学術振興会
酸化ストレスによる老人性難聴発症機序の解明と抗酸化剤のカクテル治療の研究	吉田 正	医学部附属病院	2,340,000	補委	日本学術振興会
頭頸部扁平上皮がんリンパ節転移における遅延型 TGFβ の活性化型変換機構の解析	矢野 元	大学院医学系研究科	1,690,000	補委	日本学術振興会
マイクロバイオームを用いた遅延性難治性皮膚潰瘍に対する新規治療法の開発	森 秀樹	大学院医学系研究科	2,080,000	補委	日本学術振興会
マイクログリアの睡眠覚醒リズム形成への関与:シナプスの食食と形成の繰り返し	田中 潤也	大学院医学系研究科	3,250,000	補委	日本学術振興会
アミノ酸代謝によるヘルパーT細胞運命決定機構の解明	山下 政克	大学院医学系研究科	2,210,000	補委	日本学術振興会
網羅的タンパク結合スクリーニングを駆使したステロイド性骨壊死予防法の開発	今井 祐記	プロテオサイエンスセンター	1,820,000	補委	日本学術振興会
革新的イメージングとKOマウスを駆使した骨代謝におけるArkadiaの機能解析	今村 健志	大学院医学系研究科	1,820,000	補委	日本学術振興会
口腔癌におけるB細胞の局在と機能	浜川 裕之	大学院医学系研究科	1,820,000	補委	日本学術振興会
経耳道光照射法による睡眠状態の改善効果	佐伯 由香	大学院医学系研究科	2,860,000	補委	日本学術振興会
サルコペニアの嚥下機能低下様式の解明-筋萎縮分子機構の解明-	田中 加緒里(西窪加緒里)	大学院医学系研究科	2,340,000	補委	日本学術振興会
骨による骨格筋増強作用の分子メカニズムの解明	榊原 伊織	プロテオサイエンスセンター	1,950,000	補委	日本学術振興会
Meninによるエネルギー代謝調節を介した免疫老化制御機構の解明	鈴木 淳平	大学院医学系研究科	2,210,000	補委	日本学術振興会
肝癌進展に及ぼすB細胞活性化因子の作用	小泉 光仁	医学部附属病院	2,210,000	補委	日本学術振興会
小腸脂肪酸吸収関連蛋白のNASH病態へ与える影響と治療標的分子の解明	山本 安則	医学部附属病院	1,560,000	補委	日本学術振興会
肝線維化におけるCD39の役割の解明とCD39を用いた新しい治療法の開発	吉田 理	医学部附属病院	2,210,000	補委	日本学術振興会
関節リウマチに対する次世代免疫治療カルシウム阻害薬の有用性に関する検討	劉 爽	大学院医学系研究科	1,690,000	補委	日本学術振興会
脳内AT2受容体およびHDAC2の相互作用による認知機能への影響	岩波 純	大学院医学系研究科	2,080,000	補委	日本学術振興会

髄液中エクソソームのmicroRNA解析によるグリオーマ新規診断マーカーの開発	山下 大介	医学部附属病院	2,600,000	補委	日本学術振興会
二分脊椎神経回路における抑制神経の変化	カーン モハ メドシャキル	大学院医学系研究科	1,300,000	補委	日本学術振興会
STAT1リン酸化抑制による、神経障害痛治療に関する研究	西原 佑	医学部附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
婦人科がんにおけるがん免疫逃避機構の解明	安岡 稔晃	医学部附属病院	2,340,000	補委	日本学術振興会
脳虚血におけるインフラマソームを介した自然炎症の関与	朱 鵬翔	大学院医学系研究科	1,690,000	補委	日本学術振興会
プロモワレリル尿素の全身性免疫反応症候群に対する治療効果のメカニズム解明	桑原 淳	医学部附属病院	2,210,000	補委	日本学術振興会
腺様嚢胞癌の血行性転移における時空間制御機構の解明	村瀬 隆一	医学部附属病院	2,340,000	補委	日本学術振興会
口腔扁平上皮癌における転移関連分子の探索	田中 宏史	医学部附属病院	2,730,000	補委	日本学術振興会
浮腫と身体機能・精神的健康の改善のための下肢リンパ浮腫患者の運動プログラムの開発	福田 里砂	大学院医学系研究科	780,000	補委	日本学術振興会
VEGF阻害剤投与中止後にみられるリバウンドのメカニズムの解明	石黒 俊名 (大沼俊名)	学術支援センター	2,080,000	補委	日本学術振興会
アルツハイマー病のインスリン抵抗性を標的とするアポモルフィン治療法の開発	大八木 保政	大学院医学系研究科	1,950,000	補委	日本学術振興会
PI75を標的とする新規熱帯熱マラリア伝搬阻止ワクチンの開発	鳥居 本美	プロテオサイエンスセンター	6,500,000	補委	日本学術振興会
新規遺伝子改変T細胞による難治性白血病の治療を目指した治療戦略	安川 正貴	大学院医学系研究科	6,370,000	補委	日本学術振興会
運動器疾患に対するエピジェネティック治療標的の探索	今井 祐記	プロテオサイエンスセンター	5,720,000	補委	日本学術振興会
がん骨転移と骨代謝を繋ぐ細胞間相互作用解明のための革新的イメージングシステム開発	今村 健志	大学院医学系研究科	6,240,000	補委	日本学術振興会
睡眠覚醒機構への早期介入による精神機能の自己制御修復支援	岡 靖哲	医学部附属病院	2,470,000	補委	日本学術振興会
軸索誘導因子Netrin-1を標的にした新規髄芽細胞腫瘍治療法の開発	中山 寛尚	プロテオサイエンスセンター	1,560,000	補委	日本学術振興会
革新的イメージング技術とがんモデルマダカを駆使したがん転移研究	今村 健志	大学院医学系研究科	34,840,000	補委	日本学術振興会
Smurf/Arkadiaによる表皮自然免疫の分子制御機構の解明	佐山 浩二	大学院医学系研究科	4,160,000	補委	日本学術振興会
アミノ酸転移酵素AGXT2に注目した精神障害の解析研究	上野 修一	大学院医学系研究科	3,510,000	補委	日本学術振興会
アンジオテンシンIIタイプ2受容体機能調節物質を軸とした体系的認知機能増加制御	堀内 正嗣	大学院医学系研究科	4,680,000	補委	日本学術振興会
宿主免疫評価に基づいた口腔癌分子標的免疫療法の開発	浜川 裕之	大学院医学系研究科	5,070,000	補委	日本学術振興会
三日熱マラリア伝搬阻止ワクチン候補抗原の探索	鳥居 本美	プロテオサイエンスセンター	5,460,000	補委	日本学術振興会
転写抑制因子Bach2による慢性アレルギー炎症制御機構の解明	山下 政克	大学院医学系研究科	5,460,000	補委	日本学術振興会
自己炎症疾患責任遺伝子変異例の前向き研究による自己炎症疾患発症トリガーの解明	増本 純也	プロテオサイエンスセンター	4,810,000	補委	日本学術振興会
イメージング・シミュレーション・オミクスによる骨格形成機構の多角的解析	飯村 忠浩	学術支援センター	5,460,000	補委	日本学術振興会
流行地患者血液を用いた新規伝搬阻止ワクチン候補抗原の有効性の検討	石野 智子	プロテオサイエンスセンター	5,460,000	補委	日本学術振興会
トルコと日本の自己炎症疾患症例の血清中インフラマソーム活性化因子の比較調査研究	増本 純也	プロテオサイエンスセンター	5,070,000	補委	日本学術振興会
中高度難聴者への超磁歪素子を用いた埋め込み型導人工中耳の開発	羽藤 直人	大学院医学系研究科	3,158,000	補委	日本医療研究開発機構

アcantアメーバ角膜炎制御にむけた コンタクトレンズケアの実態調査	大橋 裕一	大学院医学系研 究科	4,500,000	補 委	日本医療研究開 発機構
---------------------------------------	-------	---------------	-----------	--------	----------------

計140件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Ishizaki, J	第一内科	Low complements and high titre of anti-Sm antibody as predictors of histopathologically proven silent lupus nephritis without abnormal urinalysis in patients with systemic lupus erythematosus	Rheumatology(Oxford) 54(3):405-412, 2015
2	Ochi, T	第一内科	Optimization of T-cell reactivity by exploiting TCR chain centricity for the purpose of safe and effective antitumor TCR gene therapy	Cancer Immunol Res. 3(9):1070-1081, 2015
3	Suemori, K	第一内科	Methotrexate-associated lymphoproliferative disease with multiple pulmonary nodules in a patient with rheumatoid arthritis	Intern Med. 54: 1421-5, 2015
4	Azuma, T.	第一内科	Severe fever with thrombocytopenia syndrome mimicking intravascular lymphoma.	Rinsho Ketsueki. 56(5): 491-5, 2015
5	Onishi, S	第一内科	Novel autoantigens associated with lupus nephritis	PLoS One. 10(6):e0126564, 2015
6	Fujiwara, H.	第一内科	Antileukemia multifunctionality of CD4(+) T cells genetically engineered by HLA class I-restricted and WT1-specific T-cell receptor gene transfer	Leukemia. 29(12):2393-2401, 2015
7	Suemori, K	第一内科	Pulmonary nocardiosis due to nocardia asiatica in a patient with ANCA-associated vasculitis	Kansenshogaku Zasshi. 89(4): 470-475, 2015
8	Yamanouchi J	第一内科	A novel MYH9 mutation in a patient with MYH9 disorders and platelet size-specific effect of romiplostim on macrothrombocytopenia.	Ann Hematol 94:1599-1600, 2015
9	Katsuji Inoue	第二内科	Compensatory Increase of Left Atrial External Work to Left Ventricular Dysfunction Caused by Afterload Increase	American Journal of Physiology Heart and Circulatory Physiology 308 :
10	Seigo Miyoshi	第二内科	A Case of EGFR Mutant Lung Adenocarcinoma that Acquired Resistance to EGFR-tyrosine Kinase Inhibitors with MET Amplification and Epithelial-to-mesenchymal Transition.	Onco Targets and Therapy 8 : 783-787, 2015.
11	Chiharuko Iio.	第二内科	Characteristics of Left Atrial Deformation Parameters and Their Prognostic Impact Tracking Echocardiography. in Patients with Pathological Left Ventricular Hypertrophy: Analysis by Speckle	Echocardiography 32 : 1821-1830, 2015.

12	Chiharuko Iio	第二内科	Association Between Genetic Variation in the SCN10A Gene and Cardiac Conduction Abnormalities in Patients With Hypertrophic Cardiomyopathy.	International Heart Journal 56(4) : 421-427, 2015.
13	Tamami Kon	第二内科	Cardiac resynchronization therapy in a young patient with Duchenne muscular dystrophy.	Int Med Case Rep J 8: 173-5, 2015.
14	Masayoshi Kukida	第二内科	Angiotensin II type 2 Receptor Inhibits Vascular Intimal Proliferation With Activation of PPAR Gamma	American Journal of Hypertension 15 : 2015 [Epub ahead of print].
15	T Kono	第二内科	Aortic prosthetic graft infection detected by F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography	International Journal of Cardiology 2016;203:972-974
16	Kuroda T	第三内科	Pancreatic congestion in liver cirrhosis correlates with impaired insulin secretion.	J Gastroenterol. 50: 683-693, 2015.
17	Hirooka M	第三内科	Nonalcoholic fatty liver disease: Portal hypertension due to outflow block in patients without cirrhosis.	Radiology 274: 597-604, 2015
18	Watanabe T	第三内科	Drug-induced liver injury with serious multiform exudative erythema following the use of an over-the-counter medication containing ibuprofen.	Intern Med 54: 395-9, 2015
19	Koizumi Y	第三内科	Characterization of the biliary tract by virtual ultrasonography constructed by gadolinium ethoxybenzyl diethylenetriamine pentaacetic acid-enhanced magnetic resonance imaging.	J Med Ultrasonics 42: 185-193, 2015
20	Hiraoka A	第三内科	Clinical features of fatty liver in nonobese Japanese without regular alcohol intake.	Diabetol Intern 6: 60-65, 2015
21	Miyake T	第三内科	Significance of exercise in nonalcoholic fatty liver disease in men: a community-based large cross-sectional study.	J Gastroenterol. 50: 230-237, 2015.
22	Miyake T	第三内科	Short sleep duration reduces the risk of nonalcoholic fatty liver disease onset in men: a community-based longitudinal cohort study.	J Gastroenterol. 50: 583-589, 2015.
23	Abe M	第三内科	Association between Wisteria floribunda agglutinin-positive Mac-2 binding protein and the fibrosis stage of non-alcoholic fatty liver disease.	J Gastroenterol. 50: 776-784, 2015.
24	Yoshida O	第三内科	CD39 deficiency in murine liver allografts promotes inflammatory injury and immune-mediated rejection.	Transpl Immunol. 32: 76-83, 2015.

25	Koizumi M	第三内科	An unusual cause of abdominal pain.	Gastroenterology. 148: e1-2, 2015.
26	Hiraoka A	第三内科	Tumor Markers AFP, AFP-L3, and DCP in Hepatocellular Carcinoma Refractory to Transcatheter Arterial Chemoembolization.	Oncology. 89: 167-174, 2015.
27	Imai Y	第三内科	A case of hepatocellular carcinoma treated by radiofrequency ablation confirming the adjacent major bile duct under hybrid contrast mode through a biliary drainage catheter.	Clin J Gastroenterol. 8: 318-322, 2015.
28	Kawamoto R	総合診療科	Determinants of change in insulin resistance response to Nordic walking in community-dwelling elderly women.	J Clin Gerontol Geriat. 2015; 6: 100-105[N/A]
29	Iwaki.H	創薬・神経内科	Pharmacokinetics of levodopa/benserazide versus levodopa/carbidopa in healthy subjects and patients with Parkinson's disease.	Neurology and Clinical Neuroscience 3:68-73, 2015.
30	Kawamoto R	総合診療科	Changes in oxidized low-density lipoprotein cholesterol are associated with changes in handgrip strength in Japanese community-dwelling persons.	Endocrine. 2015; 48: 871-877. [3.878]
31	Kawamoto R	総合診療科	Characteristics of Japanese medical students associated with their intention for rural practice.	Rural Remote Health. 2015; 15: 3112[0.878]
32	Kawamoto R	総合診療科	Association between Serum Bilirubin and Estimated Glomerular Filtration Rate among Diabetic Patients Brachial-ankle pulse wave velocity is a predictor of walking distance in community-dwelling	Aging Clin Exp Res. 2015; 27: 187-193. [1.215]
33	Yoshino Y	精神科	No abnormal hexanucleotide repeat expansion of C9ORF72 in Japanese schizophrenia patients.	J Neural Transm (Vienna) 122(5) : 731-732
34	Yoshida T	精神科	Relationship between regional cerebral blood flow and neuropsychiatric symptoms in dementia with Lewy bodies.	Int J Geriatr Psychiatry 30(10) : 1068-1075, 2015
35	Yoshino Y	精神科	Antidepressant action via the nitric oxide system: A pilot study in an acute depressive model induced by arginin	Neurosci Lett 599 : 69-74, 2015
36	Mori Y	精神科	TREM2 mRNA Expression in Leukocytes Is Increased in Alzheimer's Disease and Schizophrenia.	PLoS One. 10(9) : e0136835, 2015
37	Kawabe K	精神科	Metabolic status and resistin in chronic schizophrenia over a 2-year period with continuous atypical antipsychotics	Ther Adv Psychopharmacol 5(5) : 271-277, 2015

38	Yamazaki K	精神科	A Case of Nasu-Hakola Disease without Fractures or Consanguinity Diagnosed Using Exome Sequencing and Treated with Sodium Valproate.	Clin Psychopharmacol Neurosci 13(3) : 324-326, 2015
39	Ochi F	小児科	Procalcitonin as a marker of respiratory disorder in neonates.	Pediatr Int 57: 263-268
40	Ochi F	小児科	KL-6 as a biomarker of respiratory complications in severely disabled children.	Pediatr Int 57: 439-442
41	Ochi F	小児科	Tsukamurella Incheonensis infection in a child with Hodgkin's lymphoma: a case report.	Pediatr Int 57: e7-10
42	Takemoto K	小児科	Adiponectin/resistin levels and insulin resistance in children: A four country comparison study.	Int J Pediatr Endocrinol. 2015;2015(1):2.
43	Tezuka M	小児科	Successful treatment by coil embolization for infantile hemangioma with Kasabach-Meritt syndrome.	Pediatr Int 57:738-741
44	Inoue M	小児科	Linear leukoplakia and central nervous system lesions: a clinical clue to the diagnosis of hypomelanosis of Ito.	J Pediatr 167: 771
45	Eguchi M	小児科	Recent progress in leukemic stem cell research for childhood leukemia.	Rinsho Ketsueki 56: 1871-1881
46	Takada Y	肝胆膵・移植外科	Biological markers of hepatocellular carcinoma for use as selection criteria in liver transplantation.	J Hepatobiliary Pancreat Sci 22 (4):279-286 2015
47	Yonenaga Y	肝胆膵・移植外科	Sarcoidosis manifesting as hepatic and splenic nodules mimicking ovarian cancer metastases: A case report	Oncology letters 10(4):2166-2170 2015
48	Tohyama T	肝胆膵・移植外科	The transmediastinal, intrapericardial inferior vena cava approach for hepatectomy of a large liver tumor invading the hepatic vein confluence.	Hepato-Gastroenterology 62:667-669 2015
49	M Okazaki	心臓血管・呼吸器外科学	Combined atypical carcinoid tumour and squamous cell carcinoma of the lung.	Intern Medicine 2015;(11)1385-1388
50	F Shikata	心臓血管・呼吸器外科学	Aortopulmonary collateral arteries: a rare complication after arterial switch operation for transposition of the great arteries.	Surgical Case Reports 2015;1:97-99

51	Inoue A	脳神経外科	A case of cerebellar hemangioblastoma complicated by pregnancy and concerns about the surgical period.	No Shinkei Geka Jan;43(1):57-62, 2015
52	Inoue A	脳神経外科	Ethmoidal dural arteriovenous fistula with unusual drainage route treated by transarterial embolization	J Neurointerv Surg, vol.7 April 2015, p1-p3
53	Ohue S	脳神経外科	Surgical results of tumor resection using tractography-integrated navigation-guided fence-post catheter techniques and motor-evoked potentials for preservation of motor function in patients with glioblastomas near	Neurosurg Rev 38 (2):293-307, 2015
54	Yamashita D	脳神経外科	miR340 suppresses the stem-like cell function of glioma-initiating cells by targeting tissue plasminogen activator.	Cancer Research 75(6): 1123-1133, 2015
55	Ohnishi T	脳神経外科	Oct-3/4 modulates the drug-resistant phenotype of glioblastoma cells through expression of ATP binding cassette transporter G2.	Biochim Biophys Acta 1850 (6):1197-1205, 2015
56	Chen S	脳神経外科	Diminished immune response to vaccinations in obesity: role of myeloid-derived suppressor and other myeloid cells.	Obesity Res Clin Prac 9: 35-44, 2015
57	Inoue A	脳神経外科	Utility of three-dimensional computed tomography for anatomical assistance in endoscopic endonasal transsphenoidal surgery.	Neurosurg Rev vol38 July 2015 , p559-565
58	Matsumoto S	脳神経外科	CD200(+) and CD200(-) macrophages accumulated in ischemic lesions of rat brain: The two populations cannot be classified as either M1 or M2 macrophages.	J Neuroimmunol 282:7-20, 2015
59	Inoue A	脳神経外科	Usefulness of the fusion imaging of 3D-CT and MRA for carotid artery stenting with minimum use of contrast medium in patient with renal dysfunction.	Interv Neuroradiol 2015 Apr: 21(2):277-281
60	Inoue A	脳神経外科	Two cases of pineal-region meningiomas derived from arachnoid membrane over the vein of Galen without dural attachment.	World J Surg Oncol. 25;13(1):226, 2015
61	Inoue A	脳神経外科	A case of peripheral middle cerebral artery aneurysm showing repeated morphological changes.	No Shinkei Geka Aug;43(8):713-719, 2015
62	Inoue A	脳神経外科	Usefulness of an Image Fusion Model Using Three-Dimensional CT and MRI with Indocyanine Green Fluorescence Endoscopy as a Multimodal Assistant System in Endoscopic Transsphenoidal	Int J Endocrinol. 2015, Epub 2015 Aug 3
63	Inoue A	脳神経外科	Blood vessels expressing CD90 in human and rat brain tumors.	Neuropathology. 2015 Sep 9. [Epub ahead of print]

64	Ohue S	脳神経外科	Evaluation of serial changes on computed tomography and magnetic resonance imaging after implantation of carmustine wafers in patients with malignant gliomas for differential diagnosis of tumor	J Neurooncol. 2016 Jan;126(1):119-26, Epub 2015, Sep 18
65	Fujibuchi T	整形外科科学	Cytogenetic study of secondary malignancy in giant cell tumor.	J Orthop Sci 20(1) 217-23 2015
66	Tomomi Kamada	整形外科科学	Mid-Term Clinical and Radiographic Outcomes of Porous Tantalum Modular Acetabular Components for hip Dysplasia	The Journal of Arthroplasty 30 607-610 2015
67	Nakata H	整形外科科学	Development of tumor-specific caffeine-potentiated chemotherapy using a novel drug delivery system with Span 80 nano-vesicles.	Oncol Rep. 33(4) 1593-8 2015
68	Kamada T	整形外科科学	Long term results with the interlocking uncemented long stem in revision hip arthroplasty: a mean 15-year follow-up.	The Journal of Arthroplasty 30 835-9 2015
69	Hiroshi Kiyomatsu	整形外科科学	Quantitative SHG imaging in osteoarthritis model mice, implying a diagnostic application	Biomedical Optics Express 6 405-420 2015
70	Watanabe S	整形外科科学	Short-Term Study of the Outcome of a New Instrument for All-Inside Double-Bundle Anterior Cruciate Ligament Reconstruction.	Arthroscopy 31 1893-1902 2015
71	Horiuchi H	整形外科科学	Evaluation of injured axons using two-photon excited fluorescence microscopy after spinal cord contusion injury in YFP-H line mice.	Int. J. Mol. Sci. 16 15785-99 2015
72	Fujibuchi T	整形外科科学	Two-Stage Surgery on Pregnant Woman with a Giant Cell Tumor of Bone who Refused Blood Transfusion: A Case Report	J Orthop Sci Apr. 06.2015 accepted, in press
73	Namba, C	皮膚科	Paraneoplastic pemphigus associated with fatal bronchiolitis obliterans and intractable mucosal erosions: Treatment with cyclosporin in addition to steroid, rituximab and intravenous immunoglobulin	J Dermatol. 2015 [Epub ahead of print]
74	Masuda K	皮膚科	A Case of palmoplantar pustulosis that developed with acute glomerulonephritis	J Dermatol ; 42(1) : 111-112, 2015. Jan.
75	Murakami M	皮膚科	Cefcapene pivoxil hydrochloride is a potentially new treatment for palmoplantar pustulosis with pustulotic arthro-osteitis	Dermatology ; 231 : 304-311, 2015. Apr.
76	Asai S	泌尿器科	Fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography for diagnosis of upper urinary tract urothelial carcinoma	Int J Clin Oncol 20(5)1042-1047 2015

77	Miura N	泌尿器科	Low-dose docetaxel combined with dexamethasone is feasible for patients with castration-resistant prostate cancer	Chemotherapy 61 (1)23-31 2015
78	Suzuki T	眼科	Outbreak of late-onset toxic anterior segment syndrome after implantation of one-piece intraocular lenses.	Am J Ophthalmol.159(5):934-9, 2015.
79	Oka N	眼科	Polymorphisms in cytomegalovirus genotype in immunocompetent patients with corneal endotheliitis or iridocyclitis.	J Med Virol.87(8):1441-5, 2015.
80	Suzuki T	眼科	Reply: To PMID 25637181.	Am J Ophthalmol.160(1):209, 2015.
81	Oka N	眼科	Relationship of Virulence Factors and Clinical Features in Keratitis Caused by Pseudomonas aeruginosa.	I nvest Ophthalmol Vis Sci.56(11):6892-8, 2015.
82	Kobayashi T	眼科	Miraflow, Soft Contact Lens Cleaner: Activity Against Acanthamoeba Spp.	Eye Contact Lens.41(4):240-4, 2015.
83	Kobayashi T	眼科	Stromal-epithelial interaction study: The effect of corneal epithelial cells on growth factor expression in stromal cells using organotypic culture model.	Exp Eye Res.135:109-17, 2015.
84	Nishikubo K	耳鼻咽喉科	Quantitative evaluation of age-related alteration of swallowing function: Videofluoroscopic and manometric studies	Auris Nasus Larynx 42:134-138, 2015
85	Okada M	耳鼻咽喉科	A case of hypertrophic cranial pachymeningitis associated with invasive Aspergillus mastoiditis	Auris Nasus Larynx 42:488-491, 2015
86	Kido Te	放射線科	Fusion image of coronary artery and myocardial perfusion using computed tomography.	Ann Thorac Surg. 2015 Feb;99(2):715.
87	Hamamoto Y	放射線科	Observation of intrafraction prostate displacement through the course of conventionally fractionated radiotherapy for prostate cancer.	Jpn J Radiol. 2015 Apr;33(4):187-93.
88	Koiwahara G	放射線科	Different enhancement of the hepatic parenchyma in dynamic CT for patients with normal liver and chronic liver diseases and with the dose of contrast medium based on body surface area.	Jpn J Radiol 33:194-200, 2015.
89	Kanzaki H	放射線科	Kinetics differences between PSA bounce and biochemical failure in patients treated with 125I prostate brachytherapy.	Jpn J Clin Oncol. 2015 July;45(7):688-94.

90	Yokoyama R	放射線科	Quantitative analysis of myocardial 18F-fluorodeoxyglucose uptake by PET/CT for detection of cardiac sarcoidosis.	Int J Cardiol. 2015 Sep 15;195:180-7.
91	Nakamura M	放射線科	Quantitative circumferential strain analysis using adenosine triphosphate-stress/rest 3-T tagged magnetic resonance to evaluate regional contractile dysfunction in ischemic heart disease.	Eur J Radiol. 2015 Aug;84(8):1493-501.
92	Miyagawa M	放射線科	Novel cardiac SPECT technology with semiconductor detectors: emerging trends and future perspective.	Ann Nucl Cardiol 2015;1(1):18-26.
93	Kikuchi K	放射線科	Radiological features of cerebellar glioblastoma	J Neuroradiol. 2016 Jul;43(4):260-5
94	Matsubara K	産婦人科	Nitric oxide and reactive oxygen species in the pathogenesis of preeclampsia.	Int J Mol Sci. 2015 Mar 2;16(3):4600-14.
95	Mori M	産婦人科	Stromal Cell-Derived Factor-1 α Plays a Crucial Role Based on Neuroprotective Role in Neonatal Brain Injury in Rats.	Int J Mol Sci. 2015 Aug 5;16(8):18018-32.
96	Takagi K	産婦人科	A review of best practice guide 2015 for care and treatment of hypertension in pregnancy.	Hypertension Research in Pregnancy. 2015 Nov 3, 65-102.
97	Kondo E	産婦人科	A case report of a pregnant gene carrier of spinal muscular atrophy.	International Journal of Gynecology & clinical practices. 2015;2:112.
98	Kentaro Dote	麻酔科・蘇生科	Management of patients under general anesthesia with mafutsu-san in Hanaoka-style surgery: comparisons of illustrations from Geka-Kihai-Zufu with descriptions from Mafutsuto-Ron and Yohka-Hiroku	Journal of Anesthesia 2015: 29:96-101
99	Nishihara T	麻酔科・蘇生科	Matrix metalloproteinase-14 both sheds cell surface NG2 proteoglycan on macrophages and governs the response to peripheral nerve injury	Journal of Biological Chemistry 2015: 290:3693-3707
100	Nobuhiro Higaki	麻酔科・蘇生科	Usefulness of cordotomy in patients with cancer who experience bilateral pain : implications of pain and new pain	Neurosurgery 2015:76:249-257
101	Toshihiro Yorozuya	麻酔科・蘇生科	Changes in Energy Levels by Dexamethasone in Ischemic Hearts and Brains in Male Mice	J Neurosurg Anesthesiol 2015: 27(4):295-303
102	Kentaro Dote	麻酔科・蘇生科	Mafutsuto-Ron: The First Anesthesia Textbook in the World. Bibliographic Review and English Translation	Journal of Anesthesia History 2015:1(4):102-110

103	Kenichi Takech	麻酔科・蘇生科	Real-time ultrasound-guided infraorbital nerve block to treat trigeminal neuralgia using a high concentration of tetracaine dissolved in bupivacaine.	Scandinavian Journal of Pain 2015;6:51-54
104	Kikuchi S	救急科	Minimally invasive necrosectomy using resectoscope for intractable necrotic abscess after severe acute pancreatitis: report of a case.	Surg Today. 2015 Nov;45(11):1442-5.
105	Matsumoto H	救急科	Full Recovery Case after 82 minutes out-of-hospital cardiac arrest: Importance of Chain of Survival and Predicting Outcome.	Therapeutic Hypothermia and Temp Manag. 2015; 5: 17-18.
106	Kikuchi S	救急科	The ameliorative effects of a hypnotic bromvalerylurea in sepsis. 25732089	Biochem Biophys Res Commun 2015; 459: 319-326
107	Aibiki M	救急科	Part 4: Advanced Life Support Chapter Collaborators. Advanced Life Support: 2015 International Consensus on Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care Science	Circulation, 2015; 132: 84-165)
108	Takeba J	救急科	Short-term clinical results of arthroscopic osteochondral fixation for elbow osteochondritis dissecans in teenaged baseball players.	J Shoulder Elbow Surg. 2015; 24: 1749-1756
109	Hironori Matsumoto	救急科	Continuous Monitoring of Cerebral Near-Infrared Spectroscopy (NIRS) after Cerebral Air Embolism.	Emergency Medicine (Los Angeles) 2015; 5: 252-257.
110	Sumida T	歯科口腔外科	Dental Implants in Oral Rehabilitation of A Maxillary Cancer Reconstruction: A Case Report.	J Oral Implantol 41(6):737-9, 2015
111	Goda H	歯科口腔外科	Peripheral ameloblastoma with histologically low-grade malignant features of the buccal mucosa: a case report with immunohistochemical study and genetic analysis.	Int J Clin Exp Pathol 8(2):2085-9, 2015
112	Murase R	歯科口腔外科	Double sentinel lymph node mapping with indocyanine green and 99m-technetium-tin colloid in oral squamous cell carcinoma.	Int J Oral Maxillofac Surg 44(10):1212-7, 2015
113	Nakashiro K	歯科口腔外科	I dentification of Akt1 as a potent therapeutic target for oral squamous cell carcinoma.	Int J Oncol 47(4):1273-81, 2015

計 113

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Ochi, T	第一内科	Specific roles of each TCR hemichain in generating functional chain-centric TCR.	J Immunol. 194: 3487-3500, 2015
2	Fujiwara, H	第一内科	Dose-intensified chemotherapy alone or in combination with mogamulizumab in newly diagnosed aggressive adult T-cell leukaemia-lymphoma: a randomized phase II study.	Br J Haematol. 169(5):672-682, 2015
3	Hasegawa, H	第一内科	Analysis of bone metabolism during early stage and clinical benefits of early intervention with alendronate in patients with systemic rheumatic diseases treated with high-dose glucocorticoid: Early	J Bone Miner Metab. 2015 [Epub ahead of print]
4	Jitsuo Higaki	第二内科	Comparison of Olmesartan Combined with a Calcium Channel Blocker or a Diuretic in Elderly Hypertensive Patients (COLM Study): Safety and Tolerability	Hypertens Research 38(2) : 132-136, 2015.
5	Jitsuo Higaki	第二内科	Combination Therapy of Hypertension in the Elderly : a Subgroup Analysis of the Combination of OLMesartan and a Calcium Channel Blocker or Diuretic in Japanese Elder Hypertensive Patients Trial.	Hypertension Research 38(1) : 89-96, 2015.
6	Katsuji Inoue	第二内科	The Speckle Tracking Imaging for the Assessment of Cardiac Resynchronization Therapy (START) study.	Circulation Journal 79 : 613-622, 2015.
7	Takafumi Okura	第二内科	SYMPPLICITY HTN-Japan - First Randomized Controlled Trial of Catheter-Based Renal Denervation in Asian Patients.	Circulation Journal 79 : 1222-1229, 2015.
8	Masayoshi Kukida	第二内科	Pre-treatment with LCZ696 an Orally Active Angiotensin Receptor Neprilysin I nhibitor, Prevents Ischemic Brain Damage.	European Journal Pharmacology 762 : 293-298, 2015.
9	Jitsuo Higak	第二内科	Perferable Effects of Olmesartan /Calcium Channel Blocker to Olmesartan/Diuretic on Blood Pressure Variability in Very Elderly Hypertension: COLM Study Subanalysis	Journal of Hypertension 33(10) : 2165-72, 2015.
10	Ken Okumura.	第二内科	Left Atrial Thrombus Formation and Resolution During Dabigatran Therapy: A Japanese Heart Rhythm Society Report.	Journal of Arrhythmia 4 : 226-231, 2015.
11	Hiasa Y	第三内科	Prognosis and therapy for ruptured hepatocellular carcinoma: Problems with staging and treatment strategy.	Eur J Radiol 84: 366-71, 2015
12	Hiasa Y	第三内科	Muscle atrophy as pre-sarcopenia in Japanese patients with chronic liver disease: computed tomography is useful for evaluation.	J Gastroenterol 50: 1206-13, 2015

13	Abe M	第三内科	Rapid corticosteroid tapering: important risk factor for type 1 autoimmune hepatitis relapse in Japan.	Hepatology Res. 45: 638-644, 2015.
14	Abe M	第三内科	Autoantibody status and histological variables influence biochemical response to treatment and long-term outcomes in Japanese patients with primary biliary cirrhosis.	Hepatology Res. 45: 846-855, 2015.
15	Hiasa Y	第三内科	Genome-wide association study identifies a PSMD3 variant associated with neutropenia in interferon-based therapy for chronic hepatitis C.	Hum Genet. 134: 279-289, 2015.
16	Hiasa Y	第三内科	Recessive inheritance of population-specific intronic LINE-1 insertion causes a rotor syndrome phenotype.	Hum Mutat. 36: 327-332, 2015.
17	Hiasa Y:	第三内科	Clear visualization of extravasation on angiography using carbon dioxide in a case of hepatocellular carcinoma rupture with unclear visualization using iodine contrast agent.	Intern Med. 54: 407-410, 2015.
18	Yoshida O	第三内科	Herpes simplex viral-vector design for efficient transduction of nonneuronal cells without cytotoxicity.	Proc Natl Acad Sci USA. 112: 1632-1641, 2015.
19	Yoshida O	第三内科	IRF-1 promotes liver transplant ischemia/reperfusion injury via hepatocyte IL-15/IL-15R α production.	J Immunol. 194: 6045-56, 2015.
20	Hiasa Y:	第三内科	Utility of Contrast-Enhanced Transabdominal Ultrasonography to Diagnose Early Chronic Pancreatitis.	BioMed Res Int. 2015: 393124, 2015.
21	Kumagi T	第三内科	Global PBC Study Group. Development and Validation of a Scoring System to Predict Outcomes of Patients With Primary Biliary Cirrhosis Receiving Ursodeoxycholic Acid Therapy.	Gastroenterology 2015; 149: 1804-1812[N/A]
22	Hiasa Y	第三内科	Alpha-fetoprotein and des-gamma-carboxy-prothrombin at twenty-four weeks after interferon-based therapy predict hepatocellular carcinoma development.	World J Hepatol. 7: 2757-2764, 2015.
23	Nagai M.	薬物療法・神経内科	Jejunal Infusion of Levodopa-Carbidopa Intestinal Gel Versus Oral Administration of Levodopa-Carbidopa Tablets in Japanese Subjects with Advanced Parkinson's Disease: Pharmacokinetics	Clin Pharmacokinet 2015 54(9):975-84.
24	Igase M	老年・神経内科	Portable indices for sarcopenia are associated with pressure wave reflection and central pulse pressure: the J-SHIPP study.	J Hypertens 33: 314-322, 2015.
25	Igase M	老年・神経内科	Association of postural instability with asymptomatic cerebrovascular damage and cognitive decline: the Japan Shimanami health promoting program study.	Stroke 46: 16-22, 2015.

26	Igase M	老年・神経内科	Peterlin BL. Adiponectin and leptin levels in migraineurs in the atherosclerosis risk in communities study.	Neurology 85: 482, 2015.
27	Igase M	老年・神経内科	Trans-ancestry genome-wide association study identifies 12 genetic loci influencing blood pressure and implicates a role for DNA methylation.	Nat Genet 47: 1282-1293, 2015.
28	Ohyagi Y	老年・神経内科	A case of central pontine myelinolysis caused by hypophosphatemia secondary to reefered syndrome.	Case Rep Neurol 7: 196-203, 2015.
29	Ochi H	老年・神経内科	Efficacy of intravenous methylprednisolone pulse therapy in patients with multiple sclerosis and neuromyelitis optica. Mult Scler,	Epub, Nov 12, 2015.
30	Kawamoto R	総合診療科	Association between Serum Bilirubin and Estimated Glomerular Filtration Rate among Diabetic Patients.	Int Sch Res Notices. 2015; Article ID 480418, 6 pages[N/A]
31	Iga J	精神科	Risk of bipolar disorder and psychotic features in patients initially hospitalised with severe depression.	Acta Neuropsychiatr 27(2) : 113-118, 2015
32	Iga J	精神科	Blood diagnostic biomarkers for major depressive disorder using multiplex DNA methylation profiles: discovery and validation.	Epigenetics 10(2) : 135-141, 2015
33	Iga J	精神科	Biological tests for major depressive disorder that involve leukocyte gene expression assays.	J Psychiatr Res 66-67 : 1-6, 2015
34	Ueno S	精神科	Efficacy and safety of yokukansan in treatment-resistant schizophrenia: a randomized, multicenter, double-blind, placebo-controlled trial	Evid Based Complement Alternat 2015 : 201592, 2015
35	Iga J	精神科	Polymorphism in the promoter of the gene for the serotonin transporter affects the age of onset of major depressive disorder in the Japanese population.	J Affect Disord 183 : 156-158, 2015
36	Eguchi M	小児科	Lineage-dependent skewing of loss of heterozygosity (LOH) of KRAS gene in a case of juvenile myelomonocytic leukemia.	Eur J Hematol 94: 177-181
37	Higaki T	小児科	Stenting for curved lesions using a novel curved balloon; Preliminary experimental study.	J Cardiol 66: 120-124
38	Ishii E	小児科	Identification of CD34+ and CD34-leukemia-initiating cells inn MLL-rearranged human acute lymphoblastic leukemia.	Blood 125: 967-980

39	Fukuda M, Ito M, Yano Y, Takahashi H, Motoie R, Yano A, Suzuki Y,	小児科	Postnatal interleukin-1beta administration after experimental prolonged febrile seizures enhances epileptogenesis in adulthood.	Metab Brain Dis 30: 813-819
40	Chisaka T	小児科	Drinking citrus fruit juice inhibits vascular remodeling in cuff-induced vascular injury mouse model.	PLoS One 10: e0117616
41	Chisaka T	小児科	Direct angiotensin II type 2 receptor stimulation by compound 21 prevents vascular dementia.	J Am Soc Hypertens 9: 250-256
42	Chisaka T	小児科	Angiotensin II type 2 receptor signaling affects dopamine levels in the brain and prevents binge eating disorder.	J Renin Angiotensin Aldosterone Syst 16: 749-757
43	Nagai K	小児科	Long-term morbidity and mortality in children with chronic graft-versus-host disease classified by National Institutes of Health Consensus Criteria after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	Biol Blood Marrow Transplant 21:1973-1980
44	Motoki T	小児科	Treatable renal failure found in non-ambulatory Duchenne muscular dystrophy patients.	Neuromuscul Disord 25:754-757
45	Ishii E	小児科	Clinical usefulness of serum KL-6 for detecting chronic aspiration in children with severe motor and intellectual disabilities.	J Pediatr 167:1136-1142
46	Eguchi M	小児科	HMGA2 as a potential molecular target in MLL-AF4-positive infant acute lymphoblastic leukemia.	Br J Haematol 171: 818-829
47	Tauchi, H	小児科	Homologous analysis using repetitive-sequence-based PCR typing of exfoliative toxin-producing Staphylococcus aureus isolated from our hospital.	Kansenshogaku Zasshi. 89(3):369-374, 2015
48	Yamamoto E	小児科	Study protocol for a phase III multicentre, randomised, open-label, blinded-end 26628527point trial to evaluate the efficacy and safety of immunoglobulin plus cyclosporin A in patients with severe	BMJ Open 5: e009562
49	Higaki T	小児科	DGCR6 at proximal part of DiGeorge critical region is involved in conotruncal heart defects.	Hum Genome Varia 2: 15004
50	Yuji Watanabe	消化器腫瘍外科	Risk Factors for Discontinuation of S-1 Adjuvant Chemotherapy for Gastric Cancer	Journal of Cancer 2015;6(5):464-469.doi:10.7150/jca.11189
51	Shungo Yukumi	消化器腫瘍外科	Thoracic Empyema Caused by Percutaneous Transhepatic Gallbladder Drainage.	Intern Med 54:3189-3191,2015 doi:10.2169/internalmicine.54.5084

52	Yuji Watanabe	消化器腫瘍外科	The Heat Generation Behavior for Y3Fe5O12 Ferrite Powder with Addition of Lanthanum in an AC Magnetic Field	Chem.Lett.2015, 44, 1298-1299 doi: 10.1246/cl.150480
53	Takada Y	肝胆膵・移植外科	Intestinal ischemic preconditioning ameliorates hepatic ischemia / reperfusion Injury in rats: role of heme oxygenase 1 in the second window of protection.	Liver Transplantation 21 (1):112-122 2015
54	Takada Y.	肝胆膵・移植外科	Quantification of pancreatic stiffness on intraoperative ultrasound elastography and evaluation of its relationship with postoperative pancreatic fistula.	Int Surg. 2015; 100(3): 497-502[N/A]
55	Takada Y	肝胆膵・移植外科	Pathologic assessment of pancreatic fibrosis for objective prediction of pancreatic fistula and management of prophylactic dream removal after pancreaticoduodenectomy.	World J Surg 39 (12):2967-2974 2015
56	H Izutani	心臓血管・呼吸器外科	Features of an alternative hemodialysis method using a hemoconcentrator during cardiopulmonary bypass surgeries	cardiopulmonary bypass surgeries Perfusion 2015;30(4):318-322
57	S uchita	心臓血管・呼吸器外科	Graft flow assessment using a transit time flow meter in fractional flow reserve-guided coronary artery bypass surgery	The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2015;149(6)1622-
58	Sano Y.	心臓血管・呼吸器外科	A Case of Mediastinal Granular Cell Tumor with Horner's Syndrome	An Thorac Cardiovasc Surg 2015;21:567-569
59	H Izutani	心臓血管・呼吸器外科	An unusual cause of life-threatening right-sided heart failure:undifferentiated pleomorphic sarcoma in the right ventricular outflow tract.	European Heart Journal 2015:659
60	H Izutani	心臓血管・呼吸器外科	Fatal Right Heart Failure after Left Ventricular Assist Device Implantation for a patient of Cardiomyopathy Following Fulminant Myocarditis	Journal of Cardiac Failure 2015;54(10s):164
61	F Shikata	心臓血管・呼吸器外科	Development of aortic coarctation after arterial switch operation.	Tex Heart Inst J 2015 in-press
62	Ohnishi T	脳神経外科	Oct-3/4 promotes tumor angiogenesis through VEGF production in glioblastoma.	Brain Tumor Pathol 32 (1):31-40, 2015
63	Ohnishi T	脳神経外科	Utility of 3-dimensional ultrasound imaging to evaluate carotid artery stenosis: comparison with magnetic resonance angiography.	J Stroke Cerebrovasc Dis. Jan;24(1):148-153, 2015
64	Ohnishi T	脳神経外科	Ceacam1L modulates STAT3 signaling to control the proliferation of glioblastoma-initiating cells.	Cancer Research 75(19): 4224-4234, 2015

65	Ohnishi T	脳神経外科	Eval Maintains the Stem-like Character of Glioblastoma-Initiating Cells by Activating the Noncanonical NF- κ B Signaling Pathway.	Cancer Res. 2016 Jan 1;76(1):171-81, 2015, Dec 17
66	Miura H	整形外科	Comparison of 10-year clinical wear of annealed and remelted highly cross-linked polyethylene: A propensity-matched cohort study	Journal of the mechanical behavior biomedical materials 59 2015
67	Tohyama M	皮膚科	Differential expression profile of Th1/Th2-associated chemokines characterizes Stevens-Johnson syndrome/toxic epidermal necrolysis (SJS/TEN) and drug-induced hypersensitivity syndrome/drug	Eur J Dermatol. ; 25 : 87-89, 2015, Feb.
68	Tohyama M	皮膚科	Sequelae in 145 patients with drug-induced hypersensitivity syndrome/drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms: Survey conducted by the Asian research committee on severe cutaneous adverse	J Dermatol. ; 42(3) : 276-282, 2015, Mar.
69	Sayama K	皮膚科	Cell motion predicts human epidermal stemness	The J Cell Biol. ; 209(2) : 305-315, 2015. Apr.
70	Tohyama M	皮膚科	Predictive factors associated with acute ocular involvement in Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis	Am J Ophthalmol. ; 160(2) ; 228-237, 2015. Aug.
71	Sayama K	皮膚科	Efficacy of additional i.v. immunoglobulin to steroid therapy in Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis	J Dermatol. ; 42(8) : 768-777, 2015. Aug.
72	Kikugawa T	泌尿器科	Long-term exposure to leptin enhances the growth of prostate cancer cells	Int J Oncol 46 (4)1535-1542 2015
73	Mizoue S	眼科	Fixed Combination of Travoprost and Timolol Maleate Reduces Intraocular Pressure in Japanese Patients with Primary Open-Angle Glaucoma or Ocular Hypertension: A Prospective Multicenter	Adv Ther. 32(9):823-37, 2015.
74	Mizoue S	眼科	Relationship between consecutive deterioration of mean deviation value and progression of visual field defect in open-angle glaucoma.	Clin Ophthalmol. 2015 Nov 26;9:2217-22.
75	Mizoue S	眼科	Comparison of the Toxicity Profile of Benzalkonium Chloride-Preserved Tafluprost and SofZia-Preserved Travoprost Applied to the Ocular Surface.	J Ocul Pharmacol Ther. 31(3):156-64, 2015.
76	Shiraishi A	眼科	Clinical features and management of cytomegalovirus corneal endotheliitis: analysis of 106 cases from the Japan corneal endotheliitis study.	Br J Ophthalmol.99(1):5 4-8, 2015.
77	Ohashi Y.	眼科	Landolt ring-shaped epithelial keratopathy: a novel clinical entity of the cornea.	JAMA Ophthalmol.133(1): 89-92, 2015.

78	Ohashi Y.	眼科	Development of an immunochromatographic assay kit using fluorescent silica nanoparticles for rapid diagnosis of Acanthamoeba keratitis.	J Clin Microbiol.53(1):273-7, 2015.
79	Zheng X	眼科	Recurrent ptosis in a patient with blepharochalasis: clinical and histopathologic findings.	J Craniofac Surg.26(1):52-3, 2015.
80	Suzuki T	眼科	Clinical Characteristics and Bacteriological Profile of Moraxella Keratitis.	Cornea.34(9):1105-9, 2015.
81	Shiraishi A	眼科	Influence of Eyelid Pressure on Fluorescein Staining of Ocular Surface in Dry Eyes.	Am J Ophthalmol.160(4):685-692, 2015.
82	Mizoue S	眼科	Relationship between progression of visual field defect and intraocular pressure in primary open-angle glaucoma.	Clin Ophthalmol.9:1373-8, 2015.
83	Shiraishi A	眼科	Correlation Between Recurrent Subconjunctival Hemorrhages and Conjunctivochalasis by Clinical Profile and Successful Surgical Outcome.	Eye Contact Lens. 41(6):367-72, 2015.
84	Nishida N	耳鼻咽喉科	Expression of atrophy-related transcription factors in the process of intrinsic laryngeal muscle atrophy after denervation	European Archives of Oto-Rhino-Laryngology 272(1):137-141, 2015
85	Hato N	耳鼻咽喉科	Preoperative factors affecting tympanic membrane regeneration therapy using an atelocollagen and basic fibroblast growth factor.	JAMA Otolaryngol Head Neck Surg. 141(1):60-66,2015
86	Hato N	耳鼻咽喉科	Use of ambulatory anesthesia with manually assisted ventilation for tympanic membrane regeneration therapy in children.	American Journal of Otolaryngology 36(2):153-157, 2015
87	Nota J	耳鼻咽喉科	Safety and efficacy of adenotonsillectomy for obstructive sleep apnea in infants, toddlers and preschool children	Auris Nasus Larynx 42:208-212, 2015
88	Nishida N	耳鼻咽喉科	Preventive effects of bortezomib on denervation-induced atrophy of the intrinsic laryngeal muscles: an experimental study in the rat.	Acta Otolaryngol 135(7):713-717, 2015
89	Matsuda T	放射線科	Diagnostic accuracy of late iodine enhancement on cardiac computed tomography with a denoise filter for the evaluation of myocardial infarction.	Int J Cardiovasc Imaging. 2015 Dec;31 Suppl 2:177-85.
90	Kurata A	放射線科	Functional and anatomical measures for outflow boundary conditions in atherosclerotic coronary bifurcations.	Journal of Biomechanics 2015. doi:10.1016/j.jbiomech.2015.11.036.

91	Kurata A	放射線科	Increased Aortic Valve Calcification in Familial Hypercholesterolemia: Prevalence, Extent, and Associated Risk Factors.	J Am Coll Cardiol 2015;66:2687-2695.
92	Mochizuki T.	放射線科	Dual radioisotopes simultaneous SPECT of ^{99m} Tc-tetrofosmin and ^{123I} -BMIPP using a semiconductor detector.	Asia Oceania J Nucl Med Biol. 2015; 3(1):43-49.
93	Mochizuki T.	放射線科	Predictive ability of ^{18F} -fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography for pathological complete response and prognosis after neoadjuvant chemotherapy	Asia Oceania J Nucl Med Biol 4(1), 2015.
94	Sugiyama T	産婦人科	A maternal mouse diet with moderately high-fat levels does not lead to maternal obesity but causes mesenteric adipose tissue dysfunction in male offspring.	J Nutr Biochem. 2015; 26:259-266.
95	Sugiyama T	産婦人科	High frequency of decreased antithrombin level in pregnant women with thrombosis.	Int J Hematol. 2015; 102:253-258.
96	Sugiyama T	産婦人科	Hypofibrinogenemia and the α -Fibrinogen Thr312Ala Polymorphism may be Risk Factors for Early Pregnancy Loss.	Clin Appl Thromb Hemost. 2015 Jul 1 [Epub ahead of print]
97	Sugiyama T	産婦人科	Problems of Perinatal Mental Health Care in Tokyo, Japan.	J Clin Med Res. 2015; 7:1013.
98	Sugiyama T	産婦人科	Effect of the new diagnostic criteria for gestational diabetes mellitus among Japanese women.	Diabetol Int. 2015; 6:226-231.
99	Hamakawa H.	歯科口腔外科	Ribonucleotide reductase M2 is a promising molecular target for the treatment of oral squamous cell carcinoma.	Int J Oncol 46(5):1971-7, 2015
100	Hamakawa H	歯科口腔外科	A Clinical Investigation of Oral Sarcomas at Multi-institutions Over the Past 30 Years.	Anticancer Res 35(8):4551-5, 2015
101	Hamakawa H	歯科口腔外科	Clinical implication of blood glucose monitoring in general dental offices: the Ehime Dental Diabetes Study.	BMJ Open Diabetes Res Care 13;3(1):e000151, 2015
102	Hamakawa H	歯科口腔外科	Comprehensive assessment of the prognosis of pancreatic cancer: peripheral blood neutrophil-lymphocyte ratio and immunohistochemical analyses of the tumour site.	Scand J Gastroenterol 51(5):610-7, Epub 2015
103	Onishi-Ishikawa A	歯科口腔外科	Implant-Retained Fixed Partial Dental Prostheses for Oral Rehabilitation in a Patient with Systemic Sclerosis: Report of a 3-Year Follow-up Study.	Oral Science in Japan 2015:117-118, 2015

104	Osawa, H	検査部	Bacteriological characteristics of <i>Arcanobacterium haemolyticum</i> isolated from seven patients with skin and soft-tissue infections	J Med Microbiol. 64(Pt4):369-374, 2015
105	Masumoto J	病理部	Epstein-Barr virus-related MTX-LPD in rheumatoid arthritis patients exhibits a viral pattern of the CD64 and CD35 expression on neutrophils: three case reports.	Mod Rheumatol. 2015;25:166-168. doi: 10.3109/14397595.2013.875641.
106	Masumoto J	病理部	Dysregulated mature IL-1 β production in familial Mediterranean fever.	Rheumatology (Oxford). 2015;54:660-665.
107	Nakano N	病理部	Clinical and laboratory features of fatal rapidly progressive interstitial lung disease associated with juvenile dermatomyositis.	Rheumatology (Oxford). 2015 May;54(5):784-91.
108	Kitazawa S.	病理部	Epigenetic regulation of Tbx18 gene expression during endochondral bone formation.	Cell and Tissue research, 359(2): 503-512, 2015.
109	Sugita A	病理部	Visual assessment of Ki67 using a 5-grade scale (Eye-5) is easy and practical to classify breast cancer subtypes with high reproducibility.	J Clin Pathol. 68(5): 356-361, 2015.
110	Masumoto J	病理部	Identification of Disease-Promoting HLA Class I and Protective Class II Modifiers in Japanese Patients with Familial Mediterranean Fever.	PLoS One. 2015;10:e0125938. doi: 10.1371/journal.pone.0125938.
111	Masumoto J.	病理部	The proto-oncogene survivin splice variant 2B is induced by PDGF and leads to cell proliferation in rheumatoid arthritis fibroblast-like synoviocytes.	Sci Rep. 2015;5:9795. doi: 10.1038/srep09795
112	Masumoto J.	病理部	Reconstituted AIM2 inflammasome in cell-free system.	J Immunol Methods. 2015;426:76-81. doi: 10.1016/j.jim.2015.
113	Masumoto J.	病理部	IL-1 as a target in inflammation.	Endocr Metab Immune Disord Drug Targets. 2015;15:206-211.
114	Kitazawa R	病理部	Reactivation of CDX2 in gastric cancer as mark for gene silencing memory.	Acta Histochem Cytochem, 48(4): 115-124, 2015.
115	Masumoto J.	病理部	CD1a+ survivin+ dendritic cell infiltration in dermal lesions of systemic sclerosis.	Arthritis Res Ther. 2015;17:275.
116	Kitazawa R	病理部	Parathyroid hormone-related peptide-producing multiple myeloma and renal impairment.	Internal Medicine, 54(23): 3029-3033, 2015.

117	Ken Ishihara.	医療情報部	Virtual File System on NoSQL for Processing High Volumes of HL7 Messages.	Stud Health Technol Inform. 2015;210:687-91.
118	Yakushijin, Y	腫瘍センター	Risk factors for oxaliplatin-induced phlebitis and venous pain, and evaluation of the preventive effect of preheating with a hot compress for administration of oxaliplatin.	Jap J Cancer Chem. 42(11):1397-1400, 2015
119	Yakushijin, Y	腫瘍センター	Ki-67 is a strong predictor of central nervous system relapse in patients with mantle cell lymphoma (MCL)	Ann Oncol. 26(5):966-973, 2015
120	Yakushijin, Y	腫瘍センター	Decreased expression of innate immunity-related genes in peripheral blood mononuclear cells from patients with IgG4-related disease	PLoS One. 10(5):e0126582, 2015
121	安川正貴	第一内科	可逆性記憶力障害を呈した若年性原発性シェーグレン症候群の1例	愛媛医学 34(1): 61-65, 2015
122	安川正貴	第一内科	赤芽球癆を合併した原発性マクログロブリン血症の1例	内科 116: 531-533, 2015
123	日浅陽一	第三内科	後期高齢者肝細胞癌に対するソラフェニブ治療の安全性・有効性について	肝臓 56; 369-372, 2015.
124	阿部雅則	第三内科	超高齢社会の地域医療に対する医学生を意識調査:愛媛大学医学科1年生と5年生の比較.	日老医誌 2015; 52:48-54.
125	阿部雅則	第三内科	地域在住者における主観的健康感に影響する背景因子及び生存率に関する調査	日本PC連合学会誌 2015;38:214-220.
126	伊賀瀬道也	老年・神経内科	Crescendo TIAを呈したJAK2陽性本態性血小板血症の1例	脳卒中 37: 36-40, 2015
127	河邊 憲太郎	精神科	発達障害者の勤務実態と職場における就労支援対策 愛媛県下における大規模事業所の取り組み調査から	愛媛医学34(1) : 25-30, 2015
128	堀内 史枝	精神科	ワークブックを活用した中学生の睡眠改善の試み	不眠研究 2015 : 45-50, 2015
129	松野裕介	消化器腫瘍外科	ラットモデルを用いたイリノテカン誘発消化管粘膜障害に対する成分栄養剤の有効性に関する検討	愛媛医学 Vol.34 No.2 114~125 2015.6.1

130	高田泰次	肝胆膵・移植外科	Rituximab投与ABO血液型不適合生体肝移植における安全性と有効性に関する後方視的調査研究	移植 50(1):62-77 2015
131	山下美智子	肝胆膵・移植外科	乳癌術後にtoxic shock syndromeを発症した1例	日本臨床外科学会 雑誌 76(5):955- 960 2015
132	竹林孝晃	肝胆膵・移植外科	急速な転帰をとった類上皮血管内皮腫の1例	消化器外科 38 (7):1107-1112 2015
133	岡崎幹生	心臓血管・呼吸器外科学	自然気胸に対する単孔式胸腔鏡手術の有用性	日本気胸・嚢胞性 肺疾患学会 2015;15(2):107- 109
134	久門良明	脳神経外科	愛媛県中予地区の脳卒中地域医療連携の現状と課題	0
135	堀内秀樹	整形外科	愛媛県における外傷性脊髄・脊椎損傷の発生状況調査 2012年、2013年2年間の調査	中国・四国整形外 科学会雑誌 27(2) 287-291 2015
136	藤渕剛次	整形外科	腱鞘巨細胞腫の発症部位による特徴の違い	中部日本整形外科 災害外科学会雑誌 58巻5号 1057- 1058 2015
137	竹葉 淳	整形外科	セメントレスシステム周囲の術後大腿骨骨密度変化 Wedged Taper型とFit and fill型の比較	日本人工関節学会 誌 45巻 611-612 2015
138	石丸泰光	整形外科	上腕骨小頭骨折2例の治療経験	中国・四国整形外 科学会雑誌 27 125-128 2015
139	浪口孝治	眼科	ソフトコンタクトレンズ装用眼に対するアイケア手持眼圧計の眼圧測定精度	あたらしい眼科 32 (8):1213-1217, 2015.
140	白石敦	眼科	細隙灯顕微鏡による涙点関連所見と涙液クリアランスとの関係	0
141	竹澤由起	眼科	TS-1使用患者の白内障手術後に急激な異常上皮の角膜進入をきたした1例	臨床眼科 69(8): 1201-1206, 2015.
142	白石敦	眼科	細隙灯顕微鏡による涙点関連所見と涙液クリアランスとの関係	あたらしい眼科 32 (6):876-882, 2015.

143	能田淳平	耳鼻咽喉科	外耳道真珠腫手術例の臨床的検討	Otol Jpn 25(1):25-30, 2015
144	能田淳平	耳鼻咽喉科	鼻出血489例の検討	耳鼻咽喉科臨床 108(3):191-199, 2015
145	田中加緒里	耳鼻咽喉科	加齢による嚥下障害のメカニズムを対応 — いつまでもおいしく食事をとるために—	音声言語医学 56:257-261, 2015
146	佐藤恵里子	耳鼻咽喉科	Actinomyces odontolyticus による急性型 頸部放線菌症の1例	耳鼻咽喉科・頭頸 部外科 87(12):1041-1045, 2015
147	山田啓之	耳鼻咽喉科	顔面神経ヘルニアの検討	Facial N Res Jpn 35:47-49, 2015
148	山田啓之	耳鼻咽喉科	顔面神経麻痺後遺症のスコア評価	Facial N Res Jpn 35:81-83, 2015
149	浪口孝治	耳鼻咽喉科	ソフトコンタクトレンズ装用眼に対するアイケ ア手持眼圧計の眼圧測定精度	あたらしい眼科 32 (8):1213-1217, 2015.
150	望月輝一.	放射線科	中国四国地方の大学病院および愛媛県 内がん診療連携拠点病院における食道癌 放射線治療の現状.	臨床放射線60(13): 1745-1750, 2015.
151	日野聡史	歯科口腔外科	骨粗鬆症と口腔ケア	日本医師会雑誌、 144(3):500, 2015
152	中城公一	歯科口腔外科	口腔癌診療への microRNA の応用	愛媛医学 34(3):160-165, 2015
153	木村 映善	医療情報部	Arden SyntaxとFHIRを利用した臨床判断 支援ロジック記述環境の開発の試み.	医療情報学, vol.35 no.6 2015:283- 296.
154	高橋敏明	地域医療支援センター	中学2年生に対しての運動器検診による傷 害の実態調査と今後の課題	整スポ会誌 35巻3 号 219-223, 2015.

計 154

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 病院長の責務、研究者等の責務、倫理審査委員会の設置、個人情報等、重篤な有害事象への対応に関する手順、研究の信頼性確保、研究実施に関する窓口	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反管理の対象、利益相反委員会、利益相反相談室、自己申告書の提出等の手続き	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年4回
・ 研修の主な内容 人を対象とした研究に求められる倫理的配慮、研究不正の構造分析、新しい指針の当院での運用、臨床研究データができるまで	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

第一内科 【血液内科】 【膠原病・リウマチ内科】 【感染症内科】

第一内科の専門領域は、血液、膠原病・リウマチ、感染症である。カンファレンスやセミナーを頻回に開催し、内科学会総合内科専門医、血液学会専門医、リウマチ学会専門医、感染症学会専門医を取得できるように、研修・指導を行っている。また、最近社会的ニーズが非常に高い臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医の育成にも努力している。

第二内科 【循環器内科】 【呼吸器内科】 【腎臓内科】

当科に所属する日本内科学会総合内科専門医、日本循環学会専門医、日本呼吸器学会専門医、日本腎臓専門医、日本老年病専門医、日本臨床遺伝専門医、日本アレルギー学会専門医、日本不整脈学会専門医、日本高血圧学会専門医が血管機能解析、腎生検、血液浄化療法、肺癌化学療法、経気管支鏡的肺生検・吸引針生検、冠動脈形成術、心臓再同期療法、心筋焼灼療法等の高度医療を指導し、専門医の育成を行った。

第三内科 【消化器内科】 【肝臓内科】 【内分泌代謝内科】

この領域は、第三内科が研修を担当する。消化器病として消化管・肝・胆・膵領域、甲状腺・副腎皮質などの内分泌領域、糖尿病をはじめとする糖代謝、脂質代謝、尿酸代謝、金属代謝などの代謝領域、および栄養学の研修を指導した。研修では各々の領域の患者に対して先端的な診療、検査に触れるとともに、カンファレンスを通して理解を深め、目標を持ち自律的意欲的に研修、習得する医師の養成を目指している。当科のスタッフは日本内科学会指導医、日本消化器病学会指導医、日本肝臓学会指導医、日本超音波学会指導医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本糖尿病学会指導医、日本内分泌学会指導医、日本アレルギー学会指導医、日本病態栄養学会専門医、NST稼働施設責任者等の各種指導資格を有しており、各領域の専門研修による専門医の育成とともに、内科を幅広く柔軟に診療できる内科医の育成を目指して研修・指導を行っている。

【老年・神経内科】

神経内科、老年病、脳卒中、認知症などの専門医が、神経疾患、脳卒中や認知症の診療を教育した。入院診療では、免疫性神経疾患や変性疾患などを主体として、神経学的診察、末梢神経・中枢神経の電気生理検査、針筋電図や超音波検査(頸部血管、経頭蓋、経食道)などの専門手技の研修を行った。また、認知症診療では、愛媛県認知症疾患医療センターやもの忘れ外来診療を中心に、薬物治療や介護保険の利用法、その他の社会支援制度利用や生活指導の方法などの教育を行った。

糖尿病内科・臨床検査医学【糖尿病内科】

糖尿病専門医・指導医、内科専門医・指導医による専門的かつ総合的な研修を実施した。具体的には、1型糖尿病の診断・管理、急性代謝異常の診断・管理、2型糖尿病の診断・管理、その他特定の型(2次性)糖尿病の診断・管理、糖尿病合併妊娠及び妊娠糖尿病の診断・管理、周術期の血糖管理、持続皮下インスリン注入療法(CSII)を用いた血糖管理、持続血糖測定(CG M)を用いた血糖管理、ならびに糖尿病合併症の診断・治療・管理・予防教育を行った。

【薬物療法・神経内科】

脳神経疾患の診断・治療・教育研修とともに、特に難治性神経疾患の治療薬の研究・開発・研修を行った。また、臨床研究に必要な手法の研究開発と基盤整備、および法務上必要な研修、指導を行った。研修後に総合内科専門医、神経内科専門医、認知症専門医、頭痛専門医、臨床薬理専門医を取得している。

【精神科】

大学病院及び関連病院にて研修を行っている。後期研修以降は、それぞれのサブスペシャリティを決定し、その分野で研鑽をつみ、精神科医としての技能や知識を習得する。また、下記の項目にも重点をおく。

1. 児童思春期、青年期、老年期のそれぞれの年代の症例、また器質性、機能性、反応性の各精神障害の症例すべての臨床経験を獲得するよう主治医としてかかわる。
2. 臨床研究として、学会発表を行う。
3. 国内・国際学会、教室内外の勉強会に参加する。
4. クロザピン投与、修正型電気けいれん療法、光トポグラフィーなど極めて専門性の高い検査・治療に携わる。

また、臨床経験5年後には、精神保健指定医を取得し、日本精神神経学会専門医の獲得ができるよう環境を整えている。

【小児科】

後期研修1年目より専門医の取得を目指し小児の各分野の高度医療を実践する。特に新生児の管理・治療、小児がんの造血細胞移植などの高度医療、循環器疾患のインターベンション治療を含めた高度医療、難治性神経疾患の治療、遺伝性疾患の遺伝カウンセリングなどの他、感染症、内分泌・代謝、アレルギー、腎、膠原病などの幅広い小児科の分野の研修を行っている。また研修期間中は予防接種、健診などの予防医療についても研修を行っている。

消化器腫瘍外科 【消化器腫瘍外科】

消化器（主に消化管）癌に対する外科的治療（開腹、内視鏡、ロボット支援手術）を系統的に学び、更に化学療法、放射線治療などの集学的治療による治療戦略を学ぶことができる臨床研修を行う。外科専門医のみならず内視鏡外科技術認定医を目指した高度な手術技術を指導する。ドライラボ、アニマルラボ、シミュレータ、カダバーによる習熟度に応じた手術指導も定期的に開催し、スキルアップを図る体制を用意している。

肝胆膵・移植外科【肝臓外科】【胆のう外科】【膵臓外科】【乳腺外科】【移植外科】

肝臓、胆のう、膵臓疾患について、画像診断から治療方針の決定、外科治療など消化器外科専門医並びに消化器病専門医及び肝胆膵外科高度専門医を取得できるように、研修、指導を行った。

心臓血管・呼吸器外科 【心臓血管外科】【呼吸器外科】

- 1 心臓血管外科におきましては、外科専門医、心臓血管外科専門医の資格の取得に必要な、経験、技術、知識、人間性を習得することを目標としています。将来、専門医として社会貢献できる医師を目指す研修を行った。
- 2 呼吸器外科におきましては、外科専門医、呼吸器外科専門医の取得が可能です。呼吸器外科疾患の適切な診断能力と治療方針はもちろん、呼吸器センターの一員として、あらゆる状況において応用可能な能力を身につける研修を行った。

【脳神経外科】

日本脳神経外科学会研修プログラムに則って、研修指導医の下で、脳神経外科の診断と治療に必要な知識と基本的技術を習得させるため、基本診療科の一つとして、愛媛大学と関連連携施設で研修をすすめる。当施設では脳卒中センター、脊椎センター、手術手技研修センターにおいて、脳卒中の急性期治療（脳血管内治療を含む）、脊椎・脊髄疾患の診療、手術に必要な微小解剖のトレーニングを中心としている。脳腫瘍・脳血管疾患、脊椎・脊髄の主要な疾患の他に、小児脳神経外科、機能神経外科、感染症などの田崎な疾患群全てを研修可能である。それによって、脳神経外科専門医取得にあたっての、十分な臨床経験を積める環境が整っている。

【整形外科】

運動器疾患全般に関して、科学的知識と高い社会的倫理観を備えた医師を養成すべく、進歩する

医学知識と最新の医療技術を研鑽させた。特に以下の3点に重点を置いた教育を行った。

- 1, 高齢者のQOLを支える医療
- 2, エビデンスに基づく幅広い治療方針
- 3, 水準の高い治療で早期の社会復帰をサポート

さらに、整形外科専門医習得に必要な臨床症例の経験と論文作成・学術発表の指導も行った。

皮膚科、形成外科 【皮膚科】 【形成外科】

皮膚科学会、形成外科学会の研修施設認定を受けている。

皮膚科では湿疹や感染症などの日常的疾患から、皮膚がん、自己免疫性疾患、重症薬疹、先天性疾患などの希少疾患までを対象とした総括的かつ専門性の高い研修を行っている。必要研修期間終了時には専門医の取得が可能である。

形成外科では小児の先天性疾患からマイクロサージャリーによる再建手術まで、広範囲かつ高度な専門的な技術を習得できる研修を行っている。いずれも必要研修期間終了時には専門医の取得が可能であり、その後さらに皮膚腫瘍外科専門医、レーザー専門医、頭蓋顎顔面外科専門医などの取得も可能である。

【泌尿器科】

副腎、尿路、男性生殖器の診断、治療に関する研修を行います。効率的に泌尿器科医としての研修を受け、10年間の研修を修了すれば、泌尿器科医として独り立ちできるよ

うに県下基幹病院と協力して独自の研修システムを整備しています。その中で当科では、腎や副腎、膀胱などの鏡視下手術、ロボットを用いた前立腺手術、各種開腹手術、尿路結石や膀胱癌に対しての内視鏡的手術、婦人科泌尿器科手術、慢性腎不全に導入から腎移植までの研修を行っています。また、尿路上皮癌や前立腺癌に対する抗癌化学療法や放射線治療なども、全国的にもリーダー的存在で、専門性の高い研修を行っています。

【眼科】

日本眼科学会の研修プログラム基幹研修施設として眼科指導医のもとで、眼科学の進歩に応じて、眼科医の知識と医療技術を高め、すぐれた眼科医を養成するための指導を行った。研修プログラムでは、外来患者および年間1000例以上の手術症例を中心に、眼科一般の診断と治療に必要な知識と基本的技術を取得させる内容となっている。また、高度な医療技術、特に難易度の高い手術のための知識やその実行には、頭頸部のより高度な解剖学的知識が要求されるため、御遺体を用いて以下の涙道手術手技研修を行っている。

【耳鼻咽喉科】

日本耳鼻咽喉科学会の研修施設認定を受けており、耳鼻咽喉科学ならびにその関連領域における医学の進歩に応じて、耳鼻咽喉科医の知識と医療技術を高め、すぐれた耳鼻咽喉科医の養成を図った。研修プログラムには、耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部の各領域における十分な専門性を有する指導医をおき、年間500例以上の手術症例を中心に研修を行った。人工内耳などの最先端耳鼻咽喉科医療の指導体制も充実している。

放射線科 【放射線診断分野】 【放射線治療分野】

1. 診断専門医は、画像診断（X線、CT、MRI、超音波等）、核医学、インターベンションラジオロジー（IVR）の専門的知識と診療技術を習得し、この知識と技術に基づいた検査の選択・指示・実施・管理等が出来るようにする。
2. 放射線治療専門医は、悪性腫瘍および一部の良性疾患に関して、放射線治療の効果、照射術式とその計画、有害事象、治療前中後の管理などについての専門知識と診療技術を駆使した適正な放射線治療が行えるようにする。

産婦人科 【周産期医学分野】 【婦人科腫瘍分野】 【女性医学分野】 【生殖医療分野】

日本産科婦人科学会専門医指導医のもと、上記4領域において患者を担当する医療者チームの一

員として診断・治療に携わる。4領域に関する研修ガイドラインに基づいて臨床に必要な基本知識・産婦人科疾患に対する検査・診断・治療を以下の項目を目標に修得する。

1. 周産期医学分野：母体合併症妊娠における母児の問題点および管理法、超音波検査を用いた胎児の推定体重や血流測定を含めた胎児の元気度の評価や構造異常の評価に関して修得する。分娩管理については、分娩進行の評価につき研修し、分娩介助および帝王切開の適応・手技についても修得する。

2. 婦人科腫瘍分野：婦人科疾患における超音波検査・CT検査・MRIなどの画像診断を用いた診断学の修得を行う。内診による腫瘍の進展度の評価やコルポスコーピーによる子宮頸部病変の評価について研修する。開腹術・腹腔鏡下の婦人科手術手技を理解し、基本的手技および周術期管理の実際について修得する。

3. 女性医学分野：女性の内分泌疾患に対する診断・管理やホルモン補充療法、更年期障害に対するアプローチについて研修する。

4. 生殖医療分野：不妊症の検査・診断および生殖補助技術*以外の排卵誘発法やタイミング法などの基本的な治療について研修する。(*:生殖補助技術については、他施設において研修する。)

【麻酔科蘇生科】

臨床の現場において、手術における全身麻酔や区域麻酔，集中治療管理，痛みの治療の研修指導を行い，さらに下記の研修を通して，より高度な医療技術を身につけるよう指導した。

1. 高機能シミュレータを用いた全身麻酔手技の習得
2. 危機的状況を想定したシナリオトレーニング
3. 緩和ケア医療の研修

リハビリテーション部 【リハビリテーション科】

日本リハビリテーション医学会専門医の指導の下、以下の項目を目標とした教育プログラムを行った。

1) 診断学：リハビリテーションを行う上で必要な、各種画像検査・電気生理学的検査・病理診断・超音波検査などを、評価・施行できる。運動障害や高次脳機能障害だけでなく、嚥下障害、心肺機能障害、排泄障害の評価といった、関連領域も評価ができる。

2) 治療：全身状態の管理ができる。障害評価に基づく治療計画が立てられる。各種リハビリテーション（理学療法・作業療法など）に加え、義肢装具の処方・ブロック療法・薬物治療・生活指導などができる。

【救急科】

専攻医には、以下の3つの学習方法で専門研修を行います。

1 臨床現場での学習：経験豊富な指導医が中心となり救急科専門医や他領域の専門医とも協働して、専攻医に広く臨床現場での学習を提供します。1) 救急診療や手術での実地修練(on-the-job training)、2) 診療科におけるカンファレンスおよび関連診療科との合同カンファレンス、3) 抄読会・勉強会への参加、4) 臨床現場でのシミュレーションシステムを利用した、知識・技能の習得

2 臨床現場を離れた学習：国内外の標準的治療および先進的・研究的治療を学習するために、救急医学に関連する学術集会、セミナー、講演会および JATEC、JPTEC、ICLSコースなどの off-the-job training course に積極的に参加します。救命処置法の習得のみならず、インストラクターコースへ参加できるように配慮し、その指導法を学びます。また、研修施設もしくは日本救急医学会等が開催する認定された法制・倫理・安全に関する講習にそれぞれ少なくとも1回は参加します。

3 自己学習 専門研修期間中の疾患や病態の経験値の不足を補うために、日本救急医学会等が準備する「救急診療指針」、e-Learning などを活用した学習を病院内や自宅で利用できる機会を提供します。

研修プログラムの実際と特徴 本研修プログラムは、各専攻医の希望を考慮し、個々の基本モジュールの内容を吟味した上で、基幹施設・連携施設のいずれの施設からの開始に対しても対応できるように設計された研修コースです。本研修プログラムによる救急科専門医取得後には、集中治療、外傷、熱傷などの救急科関連領域の医療技術向上および専門医取得を目指す臨床研修や、リサーチマインドの醸成および医学博士号取得を目指す研究活動を

選択することが可能です。プログラム期間中に当大学病院等で研修を行いながら愛媛大学大学院医学系研究科への社会人大学院進学を認めています。また本研修プログラム管理委員会は、基幹研修施設である愛媛大学医学部附属病院総合臨床研修センターと協力し、大学卒業後2年以内の初期研修医の希望に応じて、将来、救急科を目指すための救急医療に重点を置いた初期研修プログラム作成にもかかわっています。

1) 研修期間:研修期間は3年間です。2) 出産、疾病罹患等の事情に対する研修期間についてのルールは「項目18. 救急科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件」をご参照ください。3) 本プログラムは、研修施設要件を満たした下記の10施設によって行います。

■研修基幹施設 愛媛大学医学部附属病院救急科 (1) 救急科領域の病院機能:三次救急医療施設、災害拠点病院、ドクターカー配備、2次緊急被ばく医療指定施設(名称が変わった?)、愛媛県ドクターヘリ基幹連携病院、救急航空医療学教育基幹病院 (2) 指導者:日本救急医学会専門医・指導医3名、救急科専門医2名、整形外科専門医1名、愛媛県メディカルコントロール会長1名 (3) 救急車搬送件数:600-650台/年(主に3次救急医療を展開しているため、施設としては救急車の受け入れ数は多くはない少ないですが、専門研修施設群として十分な救急車受け入れ数があります。) (4) 研修部門:救急科 (5) 研修領域:救急初療、クリティカルケア、災害医療、ショックなどに関する研究

【歯科口腔外科】

外来における初診患者の問診、初診診察、診断、治療の口腔外科疾患一連の流れ、および手術手技難易度分類の中等度までにおける外来外科処置の執刀および術後のfollowを行った。

また、病棟においては入院から退院までの口腔癌、顎変形症、炎症、外傷、嚢胞性疾患患者等の患者管理および中等度相当までの執刀を指導医の元、経験した。臨床外に関しては、口腔外科関連論文の抄読会を担当し、学術的理解にも励んだ。

【病理科】

病理専門医は、病理学総論と諸臓器の疾患に関する病理学的知見に基づいて、医療の根幹である病理診断(病理解剖、手術・生検標本診断、細胞診)を行い、臨床医との相互討論を通じて医療の質を担保し、高度先進医療、地域医療の推進に寄与する。本院では、「患者に学び患者に還元する医療」の姿勢で、医療倫理、医療安全を実施し、社会的ニーズに応じた病理専門医を育成する。病理専門研修では、日本病理学会の「専門研修手帳」に記された基準を満たすよう、知識・技能・態度の指導を行う。病理解剖については、視聴覚教材とマンツーマン指導による手技の修得・肉眼所見と病理組織標本検鏡・診断書作成、全例CPCを行う。手術・生検標本の診断と細胞診断は、業務マニュアルによる切り出し手技や報告書作成の標準化と、指導医によるマンツーマン指導・全例検閲を行う。臨床科との症例検討会での発表討論を日常的に行い、愛媛県病理研究会、中四国支部会、日本病理学会総会での症例報告を指導する。基礎の病理学講座との連携のもとに、分子病理学的研究手法の研鑽を奨励する。病理診断学の修練のみならず、専門医取得後のキャリア形成に留意し、後進の指導にあたる人材育成を目指す。

睡眠医療センター 【睡眠医療】

睡眠障害の診断・治療について、専門的研修を実施する。日本睡眠学会認定医療機関であり、年間200例以上の終夜睡眠ポリグラフィ実施を基盤とした睡眠障害の生理学的診断法、ならびに睡眠覚醒メカニズムに即した治療手法について、学会認定医が研修を担当する。国際学会での発表、論文指導も行う。

2 研修の実績

研修医の人数	109人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
安川 正貴	第一内科	教授	39年	内科・感染症
長谷川 均	第一内科	特任教授、診療科長	37年	膠原病・リウマチ
羽藤 高明	輸血・細胞治療部	特任教授、輸血・細胞治療部長	36年	血液
薬師神 芳洋	腫瘍センター	教授、腫瘍センター長	28年	腫瘍内科
東 太地	造血細胞移植センター	講師、造血細胞移植センター長	22年	血液・造血細胞移植
大蔵 隆文	腎臓内科	特任教授	30年	
池田 俊太郎	循環器内科	准教授	24年	
片山 均	呼吸器内科	准教授	21年	
日浅 陽一	第三内科	教授	26年	消化器・内分泌・代謝内科学
大八木 保政	老年・神経内科	教授	31年	神経内科・老年病
大澤 春彦	糖尿病内科・臨床検査医学	教授	28年	
野元 正弘	薬物療法・神経内科	教授	39年	
上野 修一	精神科	教授	31年	
石井 榮一	小児科	教授	37年	
檜垣 高史	地域小児・周産期	教授	28年	
田内 久道	感染制御部	准教授	26年	
江口 真理子	小児科	准教授	25年	

福田 光成	小児科	准教授	25年	
太田 雅明	小児科	講師	20年	
石前 峰斉	小児科	講師	25年	
渡部 祐司	消化管腫瘍外科	教授	33年	
山田 耕治	小児外科	准教授	29年	
高田 泰次	肝臓・胆のう・ 膵臓・移植外科	教授	33年	消化器外科、肝胆膵 ・移植外科
泉谷 裕則	心臓血管・呼吸器 外科	教授	28年	心臓血管外科
佐野 由文	心臓血管・呼吸器 外科	准教授	31年	呼吸器外科
國枝 武治	脳神経外科	教授	23年	脳神経外科
三浦 裕正	整形外科	教授	33年	
佐山 浩二	皮膚科・形成外科	教授	32年	
中岡 啓喜	皮膚科・形成外科	准教授	32年	
雑賀 隆史	泌尿器科	教授	29年	
白石 敦	眼科	教授	30年	
羽藤 直人	耳鼻咽喉科	教授	28年	耳鼻咽喉科
望月 輝一	放射線科	教授	36年	放射線診断分野
濱本 泰	放射線科	准教授	26年	放射線治療分野
杉山 隆	産婦人科	教授	29年	周産期・女性医学分野
松原 圭一	産婦人科	准教授	29年	周産期医学分野
藤岡 徹	産婦人科	准教授	25年	婦人科腫瘍分野
松元 隆	産婦人科	講師	30年	婦人科腫瘍分野

萬家 俊博	麻酔科蘇生科	教授	32 年	
尾形 直則	整形外科	准教授	28 年	
相引 眞幸	救急科	教授	38 年	
浜川 裕之	歯科口腔外科	教授	38 年	
北澤 理子	病理診断科	特任教授、病理部長	22 年	
岡 靖哲	睡眠医療センター	准教授、センター長	23 年	睡眠医療
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

<検査部>

・研修の主な内容 肺高血圧症心エコー診断のポイント

・研修の期間・実施回数 H27年11月22日

・研修の参加人数 6名

・研修の主な内容 動画で見る超音波検査

・研修の期間・実施回数 H28年3月6日

・研修の参加人数 1名

・研修の主な内容 心不全の診断と治療

・研修の期間・実施回数 H27年10月3日

・研修の参加人数 4名

・研修の主な内容 新たな世紀の超音波検査

・研修の期間・実施回数 H27年5月15日

・研修の参加人数 1名

・研修の主な内容 分子病理診断における課題と展望

・研修の期間・実施回数 H27年2月7日

・研修の参加人数 1名

・研修の主な内容 心エコー，エキスパートになるための二日間

・研修の期間・実施回数 H27年1月24日～25日

・研修の参加人数 2名

<放射線部>

・研修の主な内容 高度な放射線治療 (VMAT)の手技の取得

・研修の期間・実施回数 7月28日と8月26日の各終日

・研修の参加人数 各1名ずつ派遣

<看護部>

・研修の主な内容 フィジカルイグザミネーションフィジカルアセスメント

予防医学実践編 対象：中堅看護師（ラダーレベルⅠ）

・研修の期間・実施回数 5月25日 1日

・研修の参加人数 50名

応用編 対象：中堅看護師（ラダーレベルⅡ）

・研修の期間・実施回数 6月28日 1日

・研修の参加人数 50名

指導編 対象：中堅看護師（ラダーレベルⅢ）

・研修の期間・実施回数 8月30日 1日

・研修の参加人数 41名

・研修の主な内容 呼吸ケアと臨床に使えるフィジカルアセスメント

対象 セクション教育・指導担当者

・研修の期間・実施回数 11月22日(火)60分予定

・研修の参加人数 約30名

・研修の主な内容 がん看護（基礎編）※4回シリーズ

対象（ラダーレベルⅡ以上）

・研修の期間・実施回数 1月～3月予定 ※各60分

・研修の参加人数 約15名

<栄養部>

・研修の主な内容	がん・心不全患者等の経腸栄養管理について
・研修の期間・実施回数	6月7日 1日
・研修の参加人数	17名
・研修の主な内容	がん、心不全患者等の静脈栄養管理について
・研修の期間・実施回数	7月5日、8月2日 2日
・研修の参加人数	16名
・研修の主な内容	がん治療と栄養関連マーカーについて
・研修の期間・実施回数	10月 4日 予定
・研修の参加人数	20名予定
・研修の主な内容	がん、肝臓、心疾患等 疾患別の栄養管理について
・研修の期間・実施回数	3月 7日（平成29年）予定
・研修の参加人数	20名予定
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）	
・研修の主な内容	
・研修の期間・実施回数	
・研修の参加人数	
<放射線部>	
・研修の主な内容	適切なRI管理を習得する
・研修の期間・実施回数	7月29日30日、9月10日
・研修の参加人数	7月は2名、9月1名派遣
<栄養部>	
・研修の主な内容	化学療法、放射線療法患者への病棟における栄養ケア
・研修の期間・実施回数	4月～6月 3回

・研修の参加人数	10名
・研修の主な内容	心不全患者の電解質異常と栄養管理
・研修の期間・実施回数	7月 1回
・研修の参加人数	10名
・研修の主な内容	老年症候群に伴う低栄養リスクと栄養ケア
・研修の期間・実施回数	9月29日～30日 2回
・研修の参加人数	10名予定
・研修の主な内容	がん患者の悪液質進展抑制に関する栄養ケア
・研修の期間・実施回数	2月23日 1回
・研修の参加人数	10名予定

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

<検査部>

- ・研修の主な内容 免疫血清検査におけるピットホール（講演）
 - ・研修の期間・実施回数 H28年 1月16日
 - ・研修の参加人数 100名
- ・研修の主な内容 IS015189の取得に関する問題点（講演）
 - ・研修の期間・実施回数 H28年2月14日
 - ・研修の参加人数 150名

<放射線部>

- ・研修の主な内容放射線治療のIMRTの手技の習得（市立宇和島病院）
 - ・研修の期間・実施回数 7月11日、14日、15日の3日間
 - ・研修の参加人数 各2名ずつ受け入れた

<栄養部>

・研修の主な内容 がん疾患別の病態栄養に関する研修会

・研修の期間・実施回数 4月 9日・10日

・研修の参加人数 120名

・研修の主な内容 腎疾患・心不全・脱水・浮腫などにおける水・電解質異常に関する研修会

・研修の期間・実施回数 5月14日・15日

・研修の参加人数 103名

・研修の主な内容 がん患者のPEG管理に関する研修会

・研修の期間・実施回数 11月16日予定

・研修の参加人数 100名予定

・研修の主な内容 神経難病患者の誤嚥性肺炎予防に栄養管理研修会

・研修の期間・実施回数 12月 3日予定

・研修の参加人数 100名予定

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	① 計画 ② 現状
管理責任者氏名	病院長 三浦 裕正
管理担当者氏名	放射線部長 望月 輝一、ME機器センター長 泉谷 裕則、薬剤部長 荒木 博陽、医療情報部長 石原 謙、看護部長 田淵 典子、総務課長 渡部 博文、人事労務課長 武智 和康、医事課長 齋藤 英雄、医療サービス課長 戒能 直樹、研究協力課長 城戸 兼洋

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	手術部
		看護記録	各病棟
		検査所見記録	医療情報部
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	医療情報部
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報部
			カルテは医療情報部で一括保管(主に電子カルテ、古いものは紙カルテ) (1患者1カルテ) 病院外への持出しは例外を除き原則禁止。禁止にかかわらず持ち出したい場合は申請して審査を受けることになっている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事労務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究協力課
		高度の医療の研修の実績	人事労務課
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部
		規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		医療サービス課
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		医療サービス課
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況		医療サービス課

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療サービス課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療サービス課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療サービス課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療サービス課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME機器センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	総務課
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	総務課
		医療安全管理部門の設置状況	総務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	総務課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	総務課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療サービス課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	総務課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	総務課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	医療サービス課
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	赤澤 正人		
閲覧担当者氏名	赤澤 正人		
閲覧の求めに応じる場所	医学部管理棟 3 階事務室		
閲覧の手続の概要			
開示請求者は、国立大学法人愛媛大学情報公開取扱規程に基づき、「法人文書開示請求書」を提出し、承認の決定後、「開示の実施方法の申出書」に基づき閲覧してもらう。			

(注)既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 患者中心の医療の実践2. チーム医療の実践3. 医療安全に関する組織的取り組み4. インシデントの報告と情報の共有5. 機能する医療事故防止対策6. 適切な医療事故への対応7. 患者相談の実施、指針等の閲覧8. 医療安全管理教育・研修、啓発9. 医療安全管理マニュアルの作成・更新	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 設置の有無 ((有)・無)・ 開催状況：年 12 回・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 医療に係る安全管理のための策定及び変更に関する事2. 医療事故防止対策の検討及び研究に関する事3. インシデントの分析及び再発防止策の検討に関する事4. 医療事故調査制度に対応する死亡原因判定に関する事5. 医療事故防止のための啓発、教育及び研修に関する事	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 新規採用者等へのオリエンテーション2. 医療安全講演会 (3回)3. 医療安全セミナー (5回)4. チームSTEPPS研修 (11回)	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機関内における事故報告等の整備 ((有)・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 医療安全ラウンド：年2回計画的に実施2. インシデント報告後の現場ラウンド、ヒアリング (随時)3. 改善事例発表会：年1回医療現場からの公募方式で実施	

(様式第6)

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">①院内感染対策に関する基本的な考え方②院内感染対策のための委員会その他の院内の組織に関する基本的事項③院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針④感染症の発生状況の報告に関する基本指針⑤院内感染発生時の対応に関する基本指針⑥患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本指針⑦その他院内感染対策の推進のための基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">①院内感染の調査、予防対策に関すること②院内感染防止の実施、監視及び指導に関する活動③院内感染発生時の措置に関すること④職員の院内感染の教育に関すること⑤その他院内感染防止に関すること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>平成27年度 第1回 感染対策 ―愛媛大学での現状― (平成27年6月1日～平成27年6月5日 開催) 第2回 MERS ―今わかっていること― (平成27年6月17日 開催) 第3回 細菌検査室からのインフォメーション (平成28年2月18日、平成28年3月3日開催)</p> <p>平成28年度 第1回 院内感染対策 ～最近の話題～ (平成28年7月4日～平成28年7月7日 開催) 第2回 検体の取り扱いについて、これから流行する感染症について～予防と対策について～ (平成28年11月10日、11月11日 予定)</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>ICT会議において事例を検討し、問題点の分析を実施している。また、その結果を含めて院内感染対策委員会で報告、重要な事例については、病院運営委員会及び病院連絡協議会に報告している。</p> <p>また、研修会においては参加者アンケートから研修会の要望を調査し、次年度の研修計画の参考としている。</p>	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： 平成28年4月26日「麻薬・輸血に関する医療安全セミナー」 ①麻薬の安全使用について②安全迅速な輸血・337人参加 平成28年度下半期にも医薬品に関する研修を開催予定。	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有 無) ・ 業務の主な内容： 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書として医薬品安全管理手順書を作成（平成19年7月1日策定）。現在、平成28年7月21日 医療安全管理委員会において承認された内容に基づいて、平成28年度版改訂中である。 医薬品安全管理手順書に基づく業務の実施状況は年2回の医療安全ラウンドにおいて医療安全管理部と薬剤部が協働して各部署での確認を行い、業務改善が必要な事項については改善を行っている。医療安全ラウンドでの各部署における確認結果は、毎月の医療安全管理部会議、医療安全管理委員会、リスクマネージャー会議で報告を行い、病院内での情報共有を行っている。さらに、薬剤部での毎月の医薬品安全管理カンファレンスにおいても報告し、薬剤師間での情報共有を図っている。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 調剤時以外での禁忌該当薬剤の確認体制 薬剤部薬品情報管理室において、処方薬剤に対して禁忌病名が登録されている入院患者情報を抽出している。抽出された情報に基づき病棟担当薬剤師が担当医に禁忌該当薬剤に対する疑義照会を行い、当該薬剤処方継続の可否の確認、必要に応じて処方提案を行っている。また、疑義照会の結果、既に終了している病名であった場合は病名整理を依頼し、適切に医薬品が使用できるよう努めている。 医療安全管理委員会への医薬品安全管理報告体制 医薬品安全管理体制を担っている部門（薬剤部）における医薬品の安全使用に係る業務（院内副作用報告、院内院外疑義照会、プリアロイド報告、禁忌該当薬剤確認等）を医療安全管理委員会へ報告している。医療安全管理委員会は医薬品安全管理体制の部門を監査し、必要に応じて意見することとしている。	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 20 回程
・ 研修の主な内容： 「人工呼吸器」「血液浄化」「補助循環装置」「保育器」「除細動器」等	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有) ・ 保守点検の主な内容： 「終業点検」「始業点検」 一部「始業点検」「動作中点検」	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有 但し、未承認は未) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 院内ホームページを利用した情報共有や定期的なインフォメーションの発刊	

(様式第6)

規則第9条の23第1項第1号から第15号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>1. 病院管理者が、医療安全担当副院長を医療安全管理責任者に指名するとともに、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する旨を規程上に明確化した。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(4名)・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
<p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>薬品情報管理室において医薬品に関する情報(イエローレター、ブルーレター、回収・出荷停止、適正使用のお願い、医薬品・医療機器等安全性情報、医薬品安全対策情報、PMDA医療安全情報、日本医療機能評価機構医療安全情報、添付文書改訂、PMDAからの公知申請情報・適応外情報)を一元的に収集し、院内メーリングリストや院内イントラネットを利用し周知している。また、DIニュース、ブレアボイドニュース、新規採用・削除薬一覧表(NewFace)を作成し、院内へ周知している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>薬剤師が調剤時に当該薬品が未承認、適応外あるいは禁忌薬に該当すると認識した場合は、担当医へ疑義照会を行い、必要に応じて妥当性の確認や処方提案を行っている。また、その結果を診療録へ記録し、必要に応じて医薬品安全管理責任者へ報告している。これらの未承認薬等に係る疑義照会情報は薬品情報管理室で収集し、院内の医療安全管理委員会へ報告する体制をとっている。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有)・無</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有)・無</p> <p>・規程の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. インフォームド・コンセントの概念及び目的2. インフォームド・コンセントの実施における説明内容、説明手順、説明方法、成立要件、説明同意書、診療録への記載、責任者の配置	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・活動の主な内容：</p> <p>1. 定期的な診療録の監査（監査チームを多職種で編成し、年2回診療録監査を行う。）</p> <p>2. 日常的な診療録チェック（診療録管理部門の業務）</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（3）名、専任（2）名、兼任（24）名</p> <p>うち医師：専従（0）名、専任（2）名、兼任（13）名</p> <p>うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名</p> <p>うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（5）名 2016.9.1現在</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>1. 報告のあったインシデントのモニタリング、分析及び影響レベルの判定</p> <p>2. インシデントごとの解決策及び再発防止策の企画・立案</p> <p>3. 安全管理に関する教育・研修等の実施</p> <p>4. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認、指導</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有 <input checked="" type="radio"/> 無）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有 <input checked="" type="radio"/> 無）</p> <p>・規程の主な内容：</p> <p>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有 <input checked="" type="radio"/> 無）</p> <p>・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有 <input checked="" type="radio"/> 無）</p>	
⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
<p>・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有 <input checked="" type="radio"/> 無）</p> <p>・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有 <input checked="" type="radio"/> 無）</p> <p>・規程の主な内容：</p>	

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 無)

⑨ 監査委員会の設置状況

有 無

・ 監査委員会の開催状況：年 回

・ 活動の主な内容：

・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (有・無)

・ 委員名簿の公表の有無 (有・無)

・ 委員の選定理由の公表の有無 (有・無)

・ 公表の方法：

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況

平成27年度：124件（2015.7.1～2016.3.31）

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：

平成27年度患者影響レベル3b以上の報告件数は67件であり、医療安全管理委員会等においてインシデントの分析及び再発防止策を検討している。

・医療安全管理委員会の活動の主な内容

患者影響レベル3b以上のインシデントの分析及び再発防止策の検討。死亡事例検討会の結果報告確認。

⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院への立入り（有（病院名： ） 無）

・他の特定機能病院からの立入り受入れ（有（病院名： ） 無）

・技術的助言の実施状況

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

総合診療サポートセンターが患者からの相談窓口となっている。個室の面談室9室、オープンな相談ブース4か所に対応している。そこには、医師2名、栄養士1名、理学療法士1名が兼任で看護師は16名、MSW7名、臨床心理士2名、メディエーター1名を専従で配置し対応している。中でも医療安全に係る相談については、総合診療サポートセンターのメディエーターが主に対応し、医療サービス課・医療安全管理部と連携して対応している。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有・無 ）

・窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（ 有・無 ）

・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有・無 ）

⑭ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 新規採用斜等へのオリエンテーション
2. 医療安全講演会 (3回)
3. 医療安全セミナー (5回)
4. チームSTEPPS研修 (11回)
5. 医療コンフリクトマネジメント研修 (医療安全管理部・看護部)

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理責任者向けの研修は行っていないが、全職種対象の研修に参加してもらっている。
今後は、国立大学附属病院長会議が主催する管理者研修を受講予定である。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 ・日本医療機能評価機構 平成23年10月24～26日	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ホームページ及び印刷物 ホームページ該当ページ 当院について 承認・指定状況 http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/aboutus/license 愛媛大学医学部・附属病院概要2015 31ページ (8)医療機関の承認指定状況	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 中央診療施設において、複数診療科等を組み合わせて診察を行っている。 周産母子センター (産婦人科、小児科)、小児医療総合センター (小児科、心臓血管・呼吸器外科)、呼吸器センター (第二内科、心臓血管・呼吸器外科)、脊椎センター (整形外科、脳神経外科)、睡眠センター (第二内科、耳鼻咽喉科)、循環器病センター (第二内科、心臓血管・呼吸器外科)、緩和ケアセンター (腫瘍センター、麻酔科蘇生科)、認知症疾患医療センター (精神科、薬物療法・神経内科、老年・神経内科)、子どものこころセンター (精神科、小児科) 等	

(様式第 8)

愛大医総第 3 2 1 号
平成 2 8 年 9 月 7 日

厚生労働大臣 塩崎 恭久 殿

開設者名 国立大学法人 愛媛大学
学長 大橋 裕一 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 医療安全管理責任者を配置するための予定措置

「愛媛大学医学部附属病院副病院長に関する規程」を一部改正し、「病院長は、医療安全を担当する副病院長を医療法施行規則第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に規定する医療安全管理責任者に指名し、医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括させる。」旨定め、平成 2 8 年 9 月 8 日付けで施行予定である。

2. 医薬品安全管理責任者の活動を充実するための予定措置

「愛媛大学医学部附属病院医薬品に関する安全管理規程」を一部改正し、医薬品安全管理責任者が指名した薬剤師が医薬品の安全使用のために情報収集・整理をし、必要に応じ医薬品安全管理責任者に報告を行うこと、また、未承認医薬品の使用もしくは適応外又は禁忌等の使用に係る安全管理体制について、同規程に定め、平成 2 8 年 9 月 8 日付けで施行予定である。

3. 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置するための予定措置

「愛媛大学医学部附属病院インフォームド・コンセント実施に係る取扱要領」を制定し、「ICの適切な実施、状況の把握、確認及び必要な指導を行うため、各診療科等に責任者を配置し、当該診療科等のリスクマネージャーをもって充てる。」及び「各診療科等の責任者を統括するために、医療安全管理部長（医療安全管理責任者）を統括責任者とする。」旨定め、平成 2 8 年 9 月 8 日付けで施行予定である。

4. 説明の実施に必要な方法に関する規程を作成するための予定措置

「愛媛大学医学部附属病院インフォームド・コンセント実施に係る取扱要領」として整備し、平成28年9月8日付けで施行予定である。

5. 診療録等の管理に関する責任者を配置するための予定措置

「愛媛大学医学部附属病院診療録管理に関する取扱細則」において、診療録管理業務責任者を定めるとともに、診療録等の定期的確認を監査方式で行うための一部改正を行い、平成28年6月10日付けで施行した。

6. 規則第9条の23第1項第10号に規定する医療に係る安全管理に資する措置を実施するための予定措置

入院患者が死亡した場合：「愛媛大学医学部附属病院死亡事例検討会に関する申合せ」を平成27年9月10日に制定し、全死亡事例に関し、各診療科が「死亡時スクリーニングシート」を作成の上、医療安全管理部へ報告することとしている。

死亡例以外の場合：ヒヤリ・ハットも含めたインシデント報告制度を既に実施しており、その報告システムを電子カルテシステムに組み込み、医療現場から直接登録することにより医療安全管理部へ報告される仕組みを構築している。

7. 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口を設置するための予定措置

「国立大学法人愛媛大学コンプライアンス基本規則」により設置している「公益通報窓口」を医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための内部通報窓口として運用することを平成28年8月3日開催の役員会で決定し、同日付けで全学メール及び院内職員専用サイト等で周知した。

8. 医療安全管理部門による医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業者の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置

診療の状況の把握については、医療安全管理部のゼネラルリスクマネージャーが、報告のあったインシデントのモニタリング、分析及び影響レベルの判定を行うことにより、インシデントごとの解決策及び再発防止策の企画・立案を行い、医療安全管理委員会等へ提案するとともに、医療の安全確保を目的として医療安全ラウンドを全診療部門対象に実施している。ラウンド時の検証に基づき現場との相互評価を行うことにより、医療の安全管理に対する意識向上を図っている。

従事者の医療安全の認識についてのモニタリングの実施方法等については、平成29年3月末までに整備する予定である。

9. 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

医療安全管理部門に高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を併設する方向で検討中であり、平成29年3月末までに設置する予定である。

10. 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置に並行して、規程整備を進め平成29年3月末までに制定する予定である。

11. 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

医療安全管理部門に未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を併設する方向で検討中であり、平成29年3月までに設置する予定である。

12. 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置に並行して、規程整備を進め平成29年3月末までに制定する予定である。

13. 監査委員会を設置するための予定措置

医療安全に特化した外部監査委員会の設置に向けて、本院との利害関係のない外部委員の選出、また、外部監査委員会の業務等を規定化する方向で検討中であり、平成29年3月までに実施する予定である。

14. 他の特定機能病院の管理者との連携による立入り及び技術的助言を遂行するための予定措置

立入り、受入れの方法や内容については、厚生労働省から示されると説明を受けているが、現在のところまだ示されていない。

今後、厚生労働省から示される立ち入り及び受け入れの方法、内容を参考に平成29年度から行う予定である。

15. 職員研修を実施するための予定措置

現在実施している医療法に定める医療安全に関する年2回の講演会や医薬品・医療機器の安全使用を目的とした各種セミナーを随時開催して、従業者の医療安全への意識向上を図るとともに、平成29年4月から、監査委員会からの意見表明に関しても研修に組み込む予定である。

16. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修，管理者，医療安全管理責任者，医薬品安全管理責任者，医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

院内で実施している医療安全に関する講演等の積極的受講を推進するとともに，国立大学附属病院長会議が実施する研修（今後検討予定）に来年度から参加させる予定である。

17. 医療安全管理部門の人員体制

- ・ 所属職員：専従（3）名，専任（2）名，兼任（24）名
- うち医師：専従（0）名，専任（2）名，兼任（13）名
- うち薬剤師：専従（1）名，専任（0）名，兼任（1）名
- うち看護師：専従（2）名，専任（0）名，兼任（5）名

18. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

薬剤師及び看護師の専従職員は配置済みである。医師の専従職員はまだ配置されていないが，専任職員として2名配置している状況である。今後，平成31年度末までに医師専従職員を1名配置する予定である。